

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 国語	科目 現代の国語	担当者(主) 脇本 将吾	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 1単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 -		
教材(出版社)	教科書 精選 現代の国語(三省堂)	副教材		
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有				
科目の目標 下記の(1)(2)(3)を目標とする。				
知識及び技能 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
具体的な評価の方法 定期考査・授業中の言語活動・アウトプットや成果物それぞれで評価。				
知識、技能 定期考査を中心に評価	思考、判断、表現 授業の言語活動を中心に評価	主体的に学習に取り組む態度 アウトプット・成果物を中心に評価		
担当者から受講上のアドバイス 「話す」「聞く」「書く」といったアウトプットを中心に行う科目です。				

2 年間指導計画※下図参照

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
4月～5月	二 相手のことを考える	「水の東西」	
6月～7月	三 情報社会を生きる	「ネットが崩す公私の境」	
9月～11月	一 知らないものに出会う	「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」	
12～3月	十 多文化共生社会と「私」	ポスターセッションで発表しよう	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 国語	科目 言語文化	担当者(主) 脇本 将吾	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 2単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 -			
教材(出版社)	教科書 精選 言語文化(三省堂)	副教材			
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 下記の(1)(2)(3)を目標とする。					
知識及び技能 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	思考力、判断力、表現力等 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
具体的な評価の方法 定期考査・授業中の言語活動・アウトプットや成果物それぞれで評価。					
知識、技能 定期考査を中心に評価	思考、判断、表現 授業の言語活動を中心に評価	主体的に学習に取り組む態度 アウトプット・成果物を中心に評価			
担当者から受講上のアドバイス 古典(古文や漢文)をはじめとする文章を「読む」ことが中心となる科目です。					

2 年間指導計画(※下図参照)

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
4月～5月	古文編・随筆	『徒然草』「ある人、弓射ることを習ふに」	
6月～7月	漢文編・故事成語	「漁夫之利」「推敲」	
9月～11月	古文編・随筆	『徒然草』「ある者、小野道風の書ける」	
12月～1月	漢文編・漢詩	「春暁」「春望」「江雪」	
2月～3月	近代以降の文章編・短歌と俳句	その子二十——短歌十六首	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 公民	科目 公民	担当者(主) 甲斐田 真妃	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 3単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 -		
教材(出版社)	教科書 高等学校 公民 これからの社会について考える	副教材		
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
科目の目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
知識及び技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		思考力、判断力、表現力等 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
具体的な評価の方法 定期考査や授業で使用するプリント、授業中の活動(レポート、スライド作成、発表等)を評価します。				
知識・技能 ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート等		思考・判断・表現 ・定期考査 ・ワークシート ・レポート ・授業の活動(プレゼン作成等)		主体的に学習に取り組む態度 ・ワークシート ・レポート ・授業の活動(プレゼン作成等) ・自己評価、振り返り
担当者から受講上のアドバイス 政治・社会の主体となるために不可欠な知識を学び、そのための能力を身に付けることを目指します。授業を通して、正しい情報を手に入れる力、得た情報から判断する力、ほかの人と意見が異なるときにどうすべきかといった力を身に付けてほしいと思います。単なる知識だけでなく、その知識を使えるようになることを意識しましょう。				

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
4月～5月	公共的な空間をつくる私たち	大人ってどんな人? お互いを理解し尊重するために	
5月	公共的な空間における人間としての在り方生き方	現代の諸課題と倫理	
6月～7月	公共的な空間における基本原理	民主社会の基本原理 日本社会の基本原理	
9月	ルールをつくり守る私たち	法と契約 司法参加の意義	
10月～12月	政治に参加する私たち	政治参加と民主政治の課題 国際政治の動向 国際政治の課題と日本の役割	
1月～3月	経済活動を行う私たち	経済のしくみと産業の変化 市場経済のしくみと金融 財政と社会保障 国際経済の動向と課題	

(1) 単元：公共的な空間をつくる私たち

<p><u>単元の目標</u></p> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解すること。</p> <p>○人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解すること。</p> <p>○自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解すること。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>			
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。</p> <p>② 伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。</p> <p>③ 古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。</p> <p>④ 自分たちが生きる社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 自己形成の課題について考察できている。</p> <p>② 先哲の思想や伝統、文化、宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。</p> <p>③ 自分と異なる価値観に基づく主張を聴いたり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたりすることができる。</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。</p> <p>② 先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にすることはないか主体的に追究できている。</p> <p>③ 自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができる。</p> </td> </tr> </table>			<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。</p> <p>② 伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。</p> <p>③ 古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。</p> <p>④ 自分たちが生きる社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 自己形成の課題について考察できている。</p> <p>② 先哲の思想や伝統、文化、宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。</p> <p>③ 自分と異なる価値観に基づく主張を聴いたり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたりすることができる。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。</p> <p>② 先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にすることはないか主体的に追究できている。</p> <p>③ 自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができる。</p>
<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。</p> <p>② 伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。</p> <p>③ 古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。</p> <p>④ 自分たちが生きる社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 自己形成の課題について考察できている。</p> <p>② 先哲の思想や伝統、文化、宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。</p> <p>③ 自分と異なる価値観に基づく主張を聴いたり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたりすることができる。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。</p> <p>② 先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にすることはないか主体的に追究できている。</p> <p>③ 自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができる。</p>			

<p><u>教材範囲</u></p> <p>教科書 10～28 ページ</p>	<p><u>内容のまとめり I</u></p> <p style="text-align: center;">生活のなかの公共</p>	<p><u>学習時期 (予定)</u></p> <p>4～5 月</p>	<p><u>配当時間</u></p> <p>6 時間</p>
---	--	--------------------------------------	--------------------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
大人ってどんな人？	①	授業プリント	①	授業プリント	①	授業中の	
お互いを理解し尊重するために	②③	定期考査	②	定期考査	②	活動	
誰もが生きやすい社会へ	④		③	授業中の活動	③		

(2) 単元：公共的な空間における人間としての在り方生き方

<p><u>単元の目標</u></p> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解すること。</p> <p>○現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上記の考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解すること。</p> <p>○人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>			
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;"> <p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 地球環境問題、資源・エネルギー</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 公共的な空間における人間とし</p> </td> <td style="width: 33%;"> <p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 選択・判断の手掛かりとなる考え</p> </td> </tr> </table>			<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 地球環境問題、資源・エネルギー</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 公共的な空間における人間とし</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 選択・判断の手掛かりとなる考え</p>
<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 地球環境問題、資源・エネルギー</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 公共的な空間における人間とし</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>① 選択・判断の手掛かりとなる考え</p>			

問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	での在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。	方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。		
<u>教材範囲</u> 教科書30～40ページ	<u>内容のまとめり I</u> 現代の諸課題と倫理	<u>学習時期 (予定)</u> 5月	<u>配当時間</u> 5 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	<u>知・技</u>		<u>態度</u>	
	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u> <u>評価方法</u>	
諸課題について	①	レポート	① レポート	① レポート

(3) **単元：公共的な空間における基本原理**

<u>単元の目標</u>	
<u>知識及び技能</u> ○各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解すること。 ○人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解すること。	<u>思考力、判断力、表現力等</u> ○公共的な空間における基本原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。
<u>観点別評価規準</u>	
<u>知識・技能</u> ①人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本原理について理解できている。 ②日本国憲法の基本原理や保障されている権利が理解できている。	<u>思考・判断・表現</u> ①このような基本原理を考察することによって，個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。 ②日本国憲法の基礎にある考え方に着目し，公共的な空間における基本原理との関連を考察することができている。
<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し，民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。 ②日本国憲法で保障されている権利が理解でき，自らの生き方と権利を結びつけることができている。	

<u>教材範囲</u> 教科書56～65	<u>内容のまとめり I</u> 民主社会の基本原理	<u>学習時期 (予定)</u> 6～7月	<u>配当時間</u> 3 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	<u>知・技</u>		<u>態度</u>	
	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u> <u>評価方法</u>	
民主政治と基本的人権	①	授業プリント	① 授業中の活動	
権力分立と法の支配				
個人と社会とのかかわり		定期考査		

<u>教材範囲</u> 教科書66～81ページ	<u>内容のまとめり II</u> 日本社会の基本原理	<u>学習時期 (予定)</u> 6～7月	<u>配当時間</u> 7 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	<u>知・技</u>		<u>態度</u>	
	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u> <u>評価方法</u>	
日本国憲法と基本原理	②	授業プリント	② 授業中の活動	
平等権・自由権				
社会権・参政権・請求権		定期考査		
人権の広がり				
国会のしくみと役割				
内閣のしくみと行政機構				

(4) **単元：ルールをつくり守る私たち**

<u>単元の目標</u>	
<u>知識及び技能</u> ○法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決する	<u>思考力、判断力、表現力等</u> ○法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現すること。

ことなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解すること。		
観点別評価規準		
知識・技能 ①法や規範の意義や役割が理解できている。 ②公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。	思考・判断・表現 ①日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げることができる。 ②裁判員制度がどのような目的で創設されたか考察できている。 ③裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できている。	主体的に学習に取り組む態度 ①身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。 ②模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。

教材範囲 教科書 82～92	内容のまとめり I 法と契約	学習時期 (予定) 9月	配当時間 3 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価		備考
	知・技	思・判・表	態度
	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法
法・規範の意義と役割	① 授業プリント	① 授業プリント	① 授業中の活動
経済社会とルール			
契約と消費者の権利	定期考査	定期考査	

教材範囲 教科書 94～100ページ	内容のまとめり II 司法参加の意義	学習時期 (予定) 9月	配当時間 3 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価		備考
	知・技	思・判・表	態度
	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法
司法権と日本の裁判制度	② 授業プリント	②③ 授業プリント	② 授業中の活動
司法参加の意義	定期考査	定期考査 模擬裁判	模擬裁判

(5) **単元：政治に参加する私たち**

単元の目標		
知識及び技能 ○政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や、課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。	思考力、判断力、表現力等 ○法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現すること。	
観点別評価規準		
知識・技能 ①地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。 ②国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 ③国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ④冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。 ⑤国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 ⑥核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 ⑦現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。	思考・判断・表現 ①選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察できている。 ②自分が理想とする選挙制度を選択することができる。 ③集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ④国連の現状と課題について考察できている。 ⑤留学生や国際 NGO と接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 ⑥国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。	主体的に学習に取り組む態度 ①模擬投票などを通して、選挙に積極的に参加するなど主権者としての自覚を持つことができている。 ②日々報道される世界の国際紛争に関心が持てている。 ③それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示することができる。 ④民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。 ⑤留学生や国際 NGO と接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に追究できている。

教材範囲 教科書102～114	内容のまとめり I 政治参加と民主政治の課題	学習時期 (予定) 10月～12月	配当時間 4 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価		備考
	知・技	思・判・表	態度
	規準	規準	規準
	評価方法	評価方法	評価方法
選挙の役割と意義	① 授業プリント	①② 授業プリント	① 授業中の活動
政党の役割	定期考査	定期考査	協議
地方自治の現状と課題			
世論の形成と政治参加			
教材範囲 教科書116～124	内容のまとめり II 国際政治の動向	学習時期 (予定) 10月～12月	配当時間 3 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価		備考
	知・技	思・判・表	態度
	規準	規準	規準
	評価方法	評価方法	評価方法
国際社会の国際法	②③ 授業プリント	③④ 授業プリント	②③ 授業中の活動
戦後の国際情勢	④ 定期考査	定期考査	レポート
現代の紛争		レポート	
教材範囲 教科書126～141ページ	内容のまとめり III 国際政治の課題と日本の役割	学習時期 (予定) 10月～12月	配当時間 6 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価		備考
	知・技	思・判・表	態度
	規準	規準	規準
	評価方法	評価方法	評価方法
日本の安全保障	⑤⑥ 授業プリント	⑤⑥ 授業プリント	④⑤ 授業プリント (記述)
日本の防衛体制	⑦ 定期考査	定期考査	
軍縮への動き			
国際連合の組織と課題			
世界の人権問題と日本			

(6) **単元：経済活動を行う私たち**

単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
<p>○市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。</p>	<p>○法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現すること。</p>	
観点別評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①現代の企業の果たしている役割が理解できている。</p> <p>②中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。</p> <p>③産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解できている。</p> <p>④市場経済のメカニズムが理解できている。</p> <p>⑤各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができている。</p> <p>⑥金融のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。</p> <p>⑦政府が経済に果たしている役割を理解できている。</p> <p>⑧財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。</p> <p>⑨社会保障について理解できている。</p>	<p>①現代の企業倫理について考察できている。</p> <p>②経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。</p> <p>③需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できている。</p> <p>④GDP が大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分なりに判断できている。</p> <p>⑤自身の老後生活を予想し、租税（支払い）と社会保障（受取り）とのバランスを考察できている。</p> <p>⑥経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響を及ぼしているかを考察できている。</p>	<p>①AIやITなどの先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。</p> <p>②経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。</p> <p>③商品の価格は需給関係によって変動するものもあることを理解し、合理的な消費行動がとれている。</p> <p>④超低金利時代に生きる一員として、今後の経済設計がきちんとたてられている。</p> <p>⑤日本の経済について課題を発見し、解決する見通しが持っている。</p> <p>⑥自分たちの日常生活が国際経済と不可分であることを自覚できている。</p> <p>⑦格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなこと</p>

<p>る。</p> <p>⑩貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。</p> <p>⑪戦後の国際経済の流れが理解できている。</p> <p>⑫発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解できている。</p>		<p>ができるか考え、実行しようという意欲を持つことができている。</p>
---	--	---------------------------------------

<p>教材範囲 教科書 142～160 ページ</p>	<p>内容のまとめり I 経済のしくみと産業の変化</p>	<p>学習時期 (予定) 1月～3月</p>	<p>配当時間 7 時間</p>																						
<p>学習活動、学習のねらい、学習形式等</p> <p>経済生活のしくみ 企業の働きと役割 日本を支える中小企業と農業 産業構造の変化と職業 労働者の権利 現代の労働問題</p>	<p>観点別学習評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①② ③</td> <td>授業プリント</td> <td></td> <td>①② ③</td> <td>授業プリント 定期考査</td> <td>①②</td> <td>授業中の活動</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	規準	知・技		思・判・表		規準	態度		評価方法		評価方法		評価方法		①② ③	授業プリント		①② ③	授業プリント 定期考査	①②	授業中の活動		<p>備考</p>	
規準	知・技		思・判・表		規準	態度																			
	評価方法		評価方法			評価方法																			
①② ③	授業プリント		①② ③	授業プリント 定期考査	①②	授業中の活動																			
<p>教材範囲 教科書 162～173 ページ</p>	<p>内容のまとめり II 市場経済のしくみと金融</p>	<p>学習時期 (予定) 1月～3月</p>	<p>配当時間 4 時間</p>																						
<p>学習活動、学習のねらい、学習形式等</p> <p>市場経済のしくみと物価 国民所得と経済成長 金融の役割と金融政策</p>	<p>観点別学習評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>④⑤ ⑥</td> <td>授業プリント</td> <td></td> <td>③④ ⑥</td> <td>授業プリント 定期考査</td> <td>③④</td> <td>授業中の活動</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	規準	知・技		思・判・表		規準	態度		評価方法		評価方法		評価方法		④⑤ ⑥	授業プリント		③④ ⑥	授業プリント 定期考査	③④	授業中の活動		<p>備考</p>	
規準	知・技		思・判・表		規準	態度																			
	評価方法		評価方法			評価方法																			
④⑤ ⑥	授業プリント		③④ ⑥	授業プリント 定期考査	③④	授業中の活動																			
<p>教材範囲 教科書 174～182 ページ</p>	<p>内容のまとめり III 財政と社会保障</p>	<p>学習時期 (予定) 1月～3月</p>	<p>配当時間 3 時間</p>																						
<p>学習活動、学習のねらい、学習形式等</p> <p>財政と租税の役割 公害対策と環境保全 少子高齢社会における社会保障</p>	<p>観点別学習評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑦⑧ ⑨</td> <td>授業プリント</td> <td></td> <td>⑤ ⑨</td> <td>授業プリント 定期考査 協議</td> <td>⑤</td> <td>授業中の活動 協議</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	規準	知・技		思・判・表		規準	態度		評価方法		評価方法		評価方法		⑦⑧ ⑨	授業プリント		⑤ ⑨	授業プリント 定期考査 協議	⑤	授業中の活動 協議		<p>備考</p>	
規準	知・技		思・判・表		規準	態度																			
	評価方法		評価方法			評価方法																			
⑦⑧ ⑨	授業プリント		⑤ ⑨	授業プリント 定期考査 協議	⑤	授業中の活動 協議																			
<p>教材範囲 教科書 184～198 ページ</p>	<p>内容のまとめり IV 国際経済の動向と課題</p>	<p>学習時期 (予定) 1月～3月</p>	<p>配当時間 5 時間</p>																						
<p>学習活動、学習のねらい、学習形式等</p> <p>国際経済のしくみ 戦後の国際経済体制 グローバル化と現代の国際経済 地域経済統合 南北問題とその課題</p>	<p>観点別学習評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th colspan="2">態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> <th>評価方法</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>⑩⑪ ⑫</td> <td>授業プリント</td> <td></td> <td>⑥ ⑫</td> <td>授業プリント 定期考査</td> <td>⑥⑦</td> <td>授業中の活動 レポート</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	規準	知・技		思・判・表		規準	態度		評価方法		評価方法		評価方法		⑩⑪ ⑫	授業プリント		⑥ ⑫	授業プリント 定期考査	⑥⑦	授業中の活動 レポート		<p>備考</p>	
規準	知・技		思・判・表		規準	態度																			
	評価方法		評価方法			評価方法																			
⑩⑪ ⑫	授業プリント		⑥ ⑫	授業プリント 定期考査	⑥⑦	授業中の活動 レポート																			

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 数 学	科目 数 学 I	担当者 平山 光一	履修年次（今年度） 2 年	単位数（今年度） 2 単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 -		
教材（出版社）	教科書 新 高校の数学 I（数研出版）	副教材 新 高校の数学 I 対応 ポイントノート数学 I（数研出版）		
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり 有	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり 有	2 学期中間 ※ 10 月中旬あたり 有	2 学期期末 ※ 12 月上旬あたり 有
学年末 ※ 3 年：1 月末 他：2 月中旬あたり 有				
科目の目標 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
知識及び技能 三角比やデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、学習した内容を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。		
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。				
知識・技能 ・定期考査および授業中の小テスト ・学期末の計算テスト	思考・判断・表現 ・定期考査および授業中の小テスト	主体的に学習に取り組む態度 ・授業中の学習態度や積極性 ・提出物の提出状況やアンケートへの回答状況 ・小テストの受査状況 ・学習教材や成果物の管理状況 ・学習内容等の振り返り状況		
担当者から受講上のアドバイス 1 授業には、「教科書」「『数学 I』専用ノート」「ポイントノート」「タブレット端末」「筆記用具」が必要です。 2 授業中に指名された際、発言や板書等の正誤は、一切評価の対象になりません。積極性重視です。 3 教科書には、中学校数学の振り返りの内容が多く収録されています。自分 1 人の学習でも取り組みやすいものですので、しっかり勉強し、わからないところは遠慮なく担当者に質問しましょう。予習は必要ありません。 4 ポイントノートには直接書き込みで解き、必ず○つけや解き直しまで済ませて提出しましょう。高評価のためのポイントは、正答の数ではなく、自分の数学力向上のために取り組もうとしたり、解けなかった問題を解けるようになろうとする姿勢がみられるかです。評価の程度は生徒本人に通知しません。解き終わった問題の解き直しを希望する場合は、担当者のポイントノートのコピーを差し上げるので、いつでも申し出てください。 5 提出できない状態だったり、無断で提出期限を過ぎた提出物は一切受け付けません。また、提出物への取り組み状況に不誠実さが見受けられた場合（例えば、解けない問題の解答を黒で写して赤で○をつけ、自力で解けたかのようにみせた）、未提出とみなすことがあります。そのことは生徒本人に通知しません。				

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとめり	備 考
年度当初～10月上旬	第3章 図形と計量	第1節 三角比 第2節 三角比への応用	
10月中旬～年度末	第5節 データの分析		

(1) **単元：3章 図形と計量**

<u>単元の目標</u>		
知識及び技能 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。	思考力、判断力、表現力等 日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	
<u>観点別評価規準</u>		
知識・技能 ①直角三角形において、三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができる ②三角定規で用いられる形の三角形について、辺の比を知っている。 ③直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができる。 ④三角比の表を利用して、三角比の値や角を調べることができる。 ⑤三角比を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 ⑥三角比を利用して、直角三角形の角のおよその大きさを求めることができる。 ⑦三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。 ⑧鈍角の三角比の値を求めることができる。 ⑨鈍角の場合についても、三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。 ⑩正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。 ⑪余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ⑫2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。	思考・判断・表現 ①三角比が三角形の大きさに関係なく、鋭角のみに依存していることを、三角形の相似から考察することができる。 ②測量の問題に三角比を活用することができる。 ③ $\sin^2 A + \cos^2 A = 1$ を三平方の定理としてとらえることができる。 ④拡張された三角比を、座標平面に図示して考察することができる。 ⑤測量の問題に正弦定理を活用することができる。 ⑥測量の問題に余弦定理を活用することができる。 ⑦問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、正弦定理や余弦定理を的確に適用できる。 ⑧測量の問題に三角比を活用することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ①直接測ることのできない距離を求めることに興味をもつ。 ②道路標識やソーラーパネルの具体例を通して、傾斜と三角比との関連に関心をもち、考察しようとする。 ③三角比の相互関係を調べようとする。 ④鋭角の場合と異なり、鈍角の三角比が座標を利用して定義される理由に関心をもち、考察しようとする。 ⑤座標を利用して定義した鈍角の三角比を、図形を利用して考察し、矛盾なく定義できることに興味をもち、考察しようとする。 ⑥正弦定理の図形的な意味を考察しようとする。 ⑦余弦定理の図形的な意味を考察しようとする。 ⑧三角比と三角形の面積の関係に関心をもち、公式を導こうとする。 ⑨自ら作成した角度測定器を用いて、他者と協力しながら、校舎の高さをより正確に測ろうとする。 ※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 98～119	<u>内容のまとめり I</u> 第1節 三角比	<u>学習時期(予定)</u> 年度当初～1学期末	<u>配当時間</u> 24時間
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>		<u>備考</u>
	知・技 規準 評価方法	思・判・表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法
1. 直角三角形	①② 定期考査および小テスト	① 定期考査および小テスト	
2. 三角比	③④	②	
3. 三角比の利用	⑤⑥	③	
4. 三角比の相互関係	⑦	④	
5. 鈍角の三角比	⑧⑨		
<u>教材範囲</u> 教科書 P. 120～133	<u>内容のまとめり II</u> 第2節 三角比の応用	<u>学習時期(予定)</u> 1学期末～10月上旬	<u>配当時間</u> 8時間
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>		<u>備考</u>
	知・技 規準 評価方法	思・判・表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法
1. 正弦定理	⑩ 定期考査および小テスト	⑤ 定期考査および小テスト	
2. 余弦定理	⑪	⑥	
3. 三角形の面積	⑫	⑦⑧	

(2) **単元：5章 データの分析**

<u>単元の目標</u>	
<p>知識及び技能</p> <p>データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できるようにする。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。</p>
<u>観点別評価規準</u>	
<p>知識・技能</p> <p>①階級、度数などの用語を理解し、データを度数分布表にまとめ、ヒストグラムをかくことができる。</p> <p>②データを度数分布表やヒストグラムに表すことよさを理解している</p> <p>③最頻値、中央値、平均値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。</p> <p>④四分位数の定義を理解し、四分位数を求めることができる。</p> <p>⑤四分位範囲、四分位偏差の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。</p> <p>⑥箱ひげ図をかくことができる。</p> <p>⑦外れ値について理解している。</p> <p>⑧散布図を作成することができる。</p> <p>⑨相関係数と散布図の関連を理解している。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>①どの代表値を用いるのが適切なかが場面によって変わってくることを理解している。</p> <p>②四分位範囲や箱ひげ図をもとに、中央値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。</p> <p>③標準偏差をもとに、平均値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。</p> <p>④散布図をもとに、データの相関を考察することができる。</p>
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①データを整理して全体の傾向を考察しようとする。</p> <p>②データの代表値から、その特性や傾向などを考察しようとする。</p> <p>③データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。</p> <p>④相関係数と散布図の関連に関心を持ち、考察しようとする。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、学習内容等の振り返り状況等により、日常的に評価する。</p>

<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめり I</u>	<u>学習時期 (予定)</u>	<u>配当時間</u>
教科書 P. 150～169	データの分析	10月中旬～年度末	24時間

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価				備考
	知・技		思・判・表		
	規準	評価方法	規準	評価方法	
1. データの整理	①②	定期考査お		定期考査お	
2. データの代表値	③④	よび小テス	①	よび小テス	
3. データの散らばり	⑤⑥	ト	②	ト	
	⑦				
4. データの相関	⑧		③		
課題学習	⑨		④		

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 理科	科目 生物基礎	担当者（主） 川野 文寛	履修年次（今年度） 2 年	単位数（今年度） 2 単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材（出版社）	教科書 数研出版「新編 生物基礎」（生基 709）	副教材		
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり -	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり 有	2 学期中間 ※ 1 0 月中旬あたり -	2 学期期末 ※ 1 2 月上旬あたり 有
科目の目標 自然の事物・現象に関わり、理科の見方や考え方をはたらかせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質や能力を育てることを目指す。				
知識及び技能 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	思考力、判断力、表現力等 自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。				
知識、技能 ・小テスト ・考査対策のプリント ・学期末考査	思考、判断、表現 ・小テスト ・考査対策のプリント ・学期末考査	主体的に学習に取り組む態度 ・実験のレポート ・授業プリント		
担当者から受講上のアドバイス 1 授業は主に授業プリントと板書・スライドを用いて進める。 2 小テストや考査対策のプリントは、主に家庭学習用で用いる。解答を一緒に配布するので丸付け・採点とやり直しを済ませて提出すること。この時正答数は成績に関係はせず、提出の有無を評価する。 3 提出物の期限を過ぎての提出は減点する。				

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月上旬	第1章 生物の特徴	1 節 生物の多様性と共通性 2 節 エネルギーと代謝	
6月下旬～9月上旬	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	3 節 呼吸と光合成 1 節 遺伝情報と DNA	
9月上旬～11月上旬	第2章 遺伝子とそのはたらき	2 節 遺伝情報の複製と分配 3 節 遺伝情報の発現	
11月下旬～1月下旬	第3章 ヒトの体内環境の維持	1 節 体内での情報伝達と調節 2 節 体内環境の維持のしくみ	
2月上旬～年度末	第3章 ヒトの体内環境の維持	3 節 免疫のはたらき	

(1) 単元：第1章 生物の特徴

単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
①生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ②生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ③さまざまな生物の細胞の観察を行い、さまざまな生物に、細胞からできているという共通性が見られることを確かめる。 ④原核細胞の観察を行い、原核細胞と真核細胞の違いを知る。 ⑤生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解する。 ⑥ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。	①さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 ②中学校で得た知識などを活用して、哺乳類に見られる共通性について説明できる。 ③系統樹を正しく読み取ることができる。 ④さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ⑤生物と生物でないものを見分け、その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 ⑥ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。	
観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①生物が「細胞からできている」、「遺伝情報として DNA をもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解している。 ②生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解している。 ③さまざまな生物の細胞の観察を行い、さまざまな生物に、細胞からできているという共通性が見られることを確かめることができる。 ④原核細胞の観察を行い、原核細胞と真核細胞の違いを知ることができる。 ⑤生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解できる。 ⑥ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解できる。	①さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 ②中学校で得た知識などを活用して、哺乳類に見られる共通性について説明できる。 ③系統樹を正しく読み取ることができる。 ④さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ⑤生物と生物でないものを見分け、その判断理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 ⑥ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。	①生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ②エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。

教材範囲 教科書 p 18～37	内容のまとめり I 1 節 生物の多様性と共通性 2 節 エネルギーと代謝	学習時期（予定） 年度当初～6月上旬	配当時間 12時間
---------------------	---	-----------------------	--------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価			備考		
	知、技 規準	知、技 評価方法	思、判、表 規準		思、判、表 評価方法	態度 規準
1 生物の多様性		小テスト		小テスト		
2 生物の共通性とその由来		小テスト		小テスト		
3 生物に共通する構造－細胞		小テスト		小テスト		
1 生命活動とエネルギー		小テスト		小テスト		

(2) **単元：第1章 生物の特徴・第2章 遺伝子とのはたらき**

単元の目標	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
①呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ②酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ③生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ④実験カタラーゼのはたらきを行い、酵素の性質を確かめる。 ⑤DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ⑥DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ⑦実験DNAの抽出を行い、生物の細胞内に含まれるDNAを抽出する。 ⑧DNAモデルの作製を行い、DNAの塩基配列にはさまざまなパターンが生じることを確かめる。	①中学校で得た知識などを活用して、植物が有機物を得る方法について説明できる。 ②DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。

観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解できる。 ②酵素の触媒作用と基質特異性について理解できる。 ③生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解できる。 ④実験カタラーゼのはたらきを行い、酵素の性質を確かめることができる。	①中学校で得た知識などを活用して、植物が有機物を得る方法について説明できる。 ②DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。	①遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。

<u>教材範囲</u> 教科書 p 38～61	<u>内容のまとめり I</u> 3節 呼吸と光合成 1節 遺伝情報とDNA	<u>学習時期(予定)</u> 6月下旬～9月上旬	<u>配当時間</u> 11時間
----------------------------	--	------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価			備考
	知、技 規準	思、判、表 規準	態度 規準	
1 呼吸	小テスト	小テスト		
2 光合成	小テスト	小テスト		
3 エネルギーの流れ	小テスト	小テスト		
4 酵素の性質	小テスト	小テスト		
1 遺伝情報を含む物質-DNA	小テスト	小テスト		
2 DNAの構造	小テスト	小テスト		

(3) 単元：第2章 遺伝子とのはたらき

単元の目標	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
①DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解する。	①複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。
②体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解する。	②アミノ酸配列と、それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに、塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応していること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。
③体細胞分裂の観察を行い、DNA の複製や分配が行われる体細胞分裂の過程を観察する。	③同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。
④DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。	④自分とチンパンジー、自分とほかの人のゲノムの塩基配列の違いについて、本やインターネットなどを活用し、調べることができる。
⑤分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。	

観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解できる。	①複製前後の DNA の模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。	①遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
②体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配されることを理解できる。	②アミノ酸配列と、それを指定する DNA の塩基配列を示した資料をもとに、塩基 3 個がアミノ酸 1 個に対応していること、塩基 3 個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。	②遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。
③体細胞分裂の観察を行い、DNA の複製や分配が行われる体細胞分裂の過程を観察できる。	③同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。	
④DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解できる。	④自分とチンパンジー、自分とほかの人のゲノムの塩基配列の違いについて、本やインターネットなどを活用し、調べることができる。	
⑤分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解できる。		

教材範囲	内容のまとめり I	学習時期 (予定)	配当時間
教科書 p 62～83	2 節 遺伝情報の複製と分配 3 節 遺伝情報の発現	9 月上旬～11 月上旬	9 時間

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 細胞周期と DNA		小テスト		小テスト			
2 遺伝情報の複製		小テスト		小テスト			
3 遺伝情報の分配		小テスト		小テスト			
1 遺伝情報とタンパク質		小テスト		小テスト			
2 タンパク質の合成		小テスト		小テスト			
3 細胞の分化と遺伝情報		小テスト		小テスト			
4 遺伝子とゲノム		小テスト		小テスト			

(4) 単元：第3章 ヒトの体内環境の維持

単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
①体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ②自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ③運動によるからだの状態の変化の測定を行い、運動によってからだに起こる変化を調べる。 ④自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ⑤糖尿病の原因を理解する。	①運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ②健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 ③健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 ④糖尿病の原因を正しく理解したうえで、原因に応じた治療方法を考え、まとめることができる。	
観点別評価規準		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。 ②自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解できる。 ③運動によるからだの状態の変化の測定を行い、運動によってからだに起こる変化を調べることができる。 ④自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解できる。 ⑤糖尿病の原因を理解できる。	①運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ②健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 ③健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 ④糖尿病の原因を正しく理解したうえで、原因に応じた治療方法を考え、まとめることができる。	①体内での情報伝達と調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ②体内環境の維持のしくみに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。

<u>教材範囲</u> 教科書 p 84～107	<u>内容のまとめ</u> I 1 節 体内での情報伝達と調節 2 節 体内環境の維持のしくみ	<u>学習時期 (予定)</u> 11月下旬～1月下旬	<u>配当時間</u> 10時間
-----------------------------	---	--------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 体内での情報伝達		小テスト		小テスト			
2 神経系による情報の伝達と調節		小テスト		小テスト			
3 内分泌系による情報の伝達と調節		小テスト		小テスト			
1 体内環境の維持		小テスト		小テスト			
2 血液濃度の調節のしくみ		小テスト		小テスト			
3 血液の循環を維持するしくみ		小テスト		小テスト			

(5) 単元：第3章 ヒトの体内環境の維持

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>①自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。</p> <p>②免疫記憶のしくみを理解する。</p> <p>③免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。</p> <p>④食作用の観察を行い、生体内で血球が異物を取りこむようすを観察する。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>①細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。</p> <p>②同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。</p> <p>③免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。</p>
<p style="text-align: center;">知識、技能</p> <p>①自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解できる。</p> <p>②免疫記憶のしくみを理解できる。</p> <p>③免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解できる。</p> <p>④食作用の観察を行い、生体内で血球が異物を取りこむようすを観察することができる。</p>	<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> <p>①細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。</p> <p>②同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。</p> <p>③免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①免疫のはたらきに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。</p>

<u>教材範囲</u> 教科書 p 108～123	<u>内容のまとめり I</u> 3節 免疫のはたらき	<u>学習時期(予定)</u> 2月上旬～年度末	<u>配当時間</u> 6 時間
------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 からだを守るしくみ		小テスト		小テスト			
2 自然免疫		小テスト		小テスト			
3 適応免疫		小テスト		小テスト			
4 免疫と健康		小テスト		小テスト			

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 保健体育	科目 体育	担当者（主） 山本 淳	履修年次（今年度） 2 年	単位数（今年度） 3 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 有			
教材（出版社）	教科書				
	副教材				
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり 有	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり -	2 学期中間 ※ 1 0 月中旬あたり 有	2 学期期末 ※ 1 2 月上旬あたり -	学年末 ※ 3 年：1 月末 他：2 月中旬あたり -
科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。					
知識及び技能 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。			
具体的な評価の方法 生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を下記の3観点ごとに評価する。 「十分満足できる」：A 「おおむね満足できる」：B 「努力を要する」：C					
知識・技能 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や運動の多様性や体力の必要性及び生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	主体的に学習に取り組む態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。			
担当者から受講上のアドバイス 体を動かすことを通して、運動やスポーツの多様な関わり方を状況によって選択し、課題の発見や合理的、計画的に解決する能力を養い、健康・安全を確保し、運動の特性や魅力を味わうとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの社会的態度を身に付ける。 (1) 運動を合理的・計画的に実践する (2) 健康の保持増進・体力の向上を図る (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむことができるスポーツの多様な楽しみ方を理解する (4) 自己や他者の課題解決に協力して主体的に取り組む					

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月上旬	体づくり運動・体育理論	体ほぐしの運動	
5月上旬～5月中旬	陸上競技・新体力テスト種目	短距離走・リレー	
5月中旬～学期末	球技	バレーボール	
9月上旬～9月下旬	体づくり運動・ダンス・体育理論	体ほぐしの運動・ダンス	
10月～11月中旬	球技	サッカー	
11月中旬～学期末	陸上競技	長距離走	
学期始め～1月下旬	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画	
2月～学期末	球技	バスケットボール・ソフトボール	

(2) 単元： 球技

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わえるようにする。 ②技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する。 ③作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> ①知識や技能を得たり生かしたりしながら、攻防などの自己やチームの課題を発見する。 ②知識や技能を得たり生かしたりしながら、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ③知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。		
<u>観点別評価規準</u> <p style="text-align: center;">知識、技能</p> ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしている。 ②技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。 ③特性に応じたゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身につけている。		<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> ①攻防などの自己やチームの課題を発見している。 ②合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ③自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		
		<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> ①自主的に取り組むとともにフェアなプレイを大切にしようとしている。 ②自己の責任を果たそうとすることや作戦などについての話し合いに貢献しようとする。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ④健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。		
<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり I</u> バドミントン・バレーボール	<u>学習時期 (予定)</u> 6月上旬～7月下旬	<u>配当時間</u> 18時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	<u>備考</u>
基礎技術の確認	② 記録、観察	①② 記録、観察	② 観察	スキルテスト
応用技術の確認	③ 記録、観察	①② 記録、観察	③ 観察	スキルテスト
ゲーム	①③ 記録、観察	③ 記録、観察	①④ 観察	
グループデジタル班ノート	②③ 入力確認	①② 入力確認	③④ 入力確認	ICT活用
<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり II</u> サッカー・ソフトボール	<u>学習時期 (予定)</u> 9月中旬～11月中旬	<u>配当時間</u> 21時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	<u>備考</u>
基礎技術の確認	② 記録、観察	①② 記録、観察	② 観察	スキルテスト
応用技術の確認	③ 記録、観察	①② 記録、観察	③ 観察	スキルテスト
ゲーム	①③ 記録、観察	③ 記録、観察	①④ 観察	
グループデジタル班ノート	②③ 入力確認	①② 入力確認	③④ 入力確認	ICT活用
<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり III</u> バスケットボール	<u>学習時期 (予定)</u> 1月下旬～3月下旬	<u>配当時間</u> 18時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	<u>備考</u>
基礎技術の確認	② 記録、観察	①② 記録、観察	② 観察	スキルテスト
応用技術の確認	③ 記録、観察	①② 記録、観察	③ 観察	スキルテスト
ゲーム	①③ 記録、観察	③ 記録、観察	①④ 観察	
グループデジタル班ノート	②③ 入力確認	①② 入力確認	③④ 入力確認	ICT活用

(3) 単元： 体づくり運動

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び運動</p> ①体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにする。 ②運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解する。 ③健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組む。		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> ①自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。
<u>観点別評価規準</u>		
<p style="text-align: center;">知識、運動</p> ①体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにしている。 ②運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 ③健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組んでいる。	<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> ①自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> ①体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。

<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり I</u> 体ほぐし運動	<u>学習時期 (予定)</u> 4月、9月、1月	<u>配当時間</u> 6 時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	<u>知、運</u> 規準	評価方法	<u>思、判、表</u> 規準	評価方法	<u>態度</u> 規準	評価方法	
体ほぐしのための運動	①②	観察	①	観察	①	観察	
道具を活用した運動	①②	観察	①	観察	①	観察	
運動の組み立て	③	観察	①	観察	①	観察	発表

<u>教材範囲</u> なし	<u>内容のまとめり II</u> 実生活に生かす運動の計画	<u>学習時期 (予定)</u> 4月、9月、1月	<u>配当時間</u> 9 時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	<u>知、技</u> 規準	評価方法	<u>思、判、表</u> 規準	評価方法	<u>態度</u> 規準	評価方法	
ラジオ体操第2	①②③	記録、観察	①②③	記録、観察	①②③	観察	発表

(4) 単元： **体育理論**

<u>単元の目標</u>	
知識	思考力、判断力、表現力等
① スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。	① スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
<u>観点別評価規準</u>	
知識	思考力、判断力、表現力等
学びに向かう力、人間性等	
① 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。	① 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。
① 運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代保健体育 体育編	<u>内容のまとめり I</u> 運動やスポーツの効果的な学習の仕方	<u>学習時期 (予定)</u> 4月・5月、9月	<u>配当時間</u> 6 時間
------------------------------------	---------------------------------------	------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	規準	知 評価方法	規準	思、判、表 評価方法	規準	態度 評価方法	
運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	確認テスト
スポーツの技術と技能及びその変化	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	
運動やスポーツの技能の上達過程	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	
運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	①	記録、観察	①	記録、観察	①	観察	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 保健体育	科目 保健	担当者(主) 山本 淳	履修年次(今年度) 2 年	単位数(今年度) 1 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 -			
教材(出版社)	教科書 現代高等保健体育(大修館)	副教材			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
知識及び技能 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身につけるようにする。	思考力、判断力、表現力等 ①知識や技能を得たり生かしたりしながら、健康について自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) ①生涯を通して自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
具体的な評価の方法 生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を下記の3観点ごとに評価する。 「十分満足できる」: A 「おおむね満足できる」: B 「努力を要する」: C					
知識・技能 ①定期考査(小問)	思考・判断・表現 ①定期考査(記述) ②発問ワークプリント	主体的に学習に取り組む態度 ①授業への主体性、学習態度 ②提出物 ③学習教材の管理			
担当者から受講上のアドバイス 生涯の各段階(思春期、結婚生活、加齢)において、健康、行動、生活などに課題や特徴があり、自他の健康管理、安全管理及び環境づくりとともに心身の健康の保持増進が大きな課題となっている。「保健」では健康・安全に関する基礎的・基本的な内容(環境衛生活動、食品衛生活動、保健・医療制度など)を体系的に学習することにより、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月下旬	生涯を通じる健康	生涯の各段階における健康	
6月上旬～6月下旬		労働と健康	
7月上旬～10月上旬	健康を支える環境づくり	環境と健康	
10月上旬～11月中旬		食品と健康	
11月中旬～1月下旬		保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	
1月下旬～2月下旬		様々な保健活動や社会的対策	
2月下旬～学年末		健康に関する環境づくりと社会参加	

(1) **単元： 生涯を通じる健康**

<u>単元の目標</u>	
知識及び技能 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める。	思考力、判断力、表現力等 健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともにそれらを表現する。
<u>観点別評価規準</u>	
知識・技能 ①生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深めようとしている。	思考・判断・表現 ①健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともにそれらを表現している。
主体的に学習に取り組む態度 ①生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P76～P91	<u>内容のまとめり I</u> 生涯の各段階における健康	<u>学習時期 (予定)</u> 年度当初～6月上旬	<u>配当時間</u> 7 時間
---	---	-------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
講義	①	観察	①	観察	①	観察	定期考査
ワークプリント	①	記録、観察	①	記録、観察			

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P92～P98	<u>内容のまとめり II</u> 労働と健康	<u>学習時期 (予定)</u> 6月上旬～7月下旬	<u>配当時間</u> 4 時間
---	-----------------------------------	-------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
講義	①	観察	①	観察	①	観察	定期考査
ワークプリント	①	記録、観察	①	記録、観察			

(4) **単元： 健康を支える環境づくり**

<u>単元の目標</u>	
知識及び技能 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める。	思考力、判断力、表現力等 健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。
<u>観点別評価規準</u>	
知識、技能 ①健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、理解を深めようとしている。	思考、判断、表現 ①健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現している。
主体的に学習に取り組む態度 ①健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P100～P109	<u>内容のまとめり I</u> 環境と健康	<u>学習時期 (予定)</u> 9月上旬～10月中旬	<u>配当時間</u> 7 時間
---	----------------------------------	--------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
講義	①	観察	①	観察	①	観察	定期考査
ワークプリント	①	記録、観察	①	記録、観察			

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P110～P115	<u>内容のまとめり I</u> 食品と健康	<u>学習時期 (予定)</u> 10月中旬～11月下旬	<u>配当時間</u> 5 時間
---	----------------------------------	---------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
講義	①	観察	①	観察	①	観察	定期考査
ワークプリント	①	記録、観察	①	記録、観察			

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育 保健編P 1 1 6～P 1 2 3	<u>内容のまとめり I</u> 保健・医療制度及び地域の 保健・医療機関	<u>学習時期 (予定)</u> 1 2 月上旬～2 月上旬	<u>配当時間</u> 6 時間																								
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u> 講義 ワークプリント	<u>観点別学習評価</u> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th>知、技</th> <th colspan="2">思、判、表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th>態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>観察</td> <td>①</td> <td>観察</td> <td>①</td> <td>観察</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>記録、観察</td> <td>①</td> <td>記録、観察</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			規準	知、技	思、判、表		規準	態度	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	①	観察	①	観察	①	観察	①	記録、観察	①	記録、観察			<u>備考</u> 定期考査
規準	知、技	思、判、表			規準	態度																					
	評価方法	規準	評価方法	規準		評価方法																					
①	観察	①	観察	①	観察																						
①	記録、観察	①	記録、観察																								
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育 保健編P 1 2 4～P 1 2 5	<u>内容のまとめり I</u> 様々な保健活動や社会的対策	<u>学習時期 (予定)</u> 2 月上旬～2 月下旬	<u>配当時間</u> 3 時間																								
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u> 講義 ワークプリント	<u>観点別学習評価</u> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th>知、技</th> <th colspan="2">思、判、表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th>態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>観察</td> <td>①</td> <td>観察</td> <td>①</td> <td>観察</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>記録、観察</td> <td>①</td> <td>記録、観察</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			規準	知、技	思、判、表		規準	態度	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	①	観察	①	観察	①	観察	①	記録、観察	①	記録、観察			<u>備考</u> 定期考査
規準	知、技	思、判、表			規準	態度																					
	評価方法	規準	評価方法	規準		評価方法																					
①	観察	①	観察	①	観察																						
①	記録、観察	①	記録、観察																								
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育 保健編P 1 2 6～P 1 2 9	<u>内容のまとめり I</u> 様々な保健活動や社会的対策	<u>学習時期 (予定)</u> 3 月上旬～3 月中旬	<u>配当時間</u> 3 時間																								
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u> 講義 ワークプリント	<u>観点別学習評価</u> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th>知、技</th> <th colspan="2">思、判、表</th> <th rowspan="2">規準</th> <th>態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>観察</td> <td>①</td> <td>観察</td> <td>①</td> <td>観察</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>記録、観察</td> <td>①</td> <td>記録、観察</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			規準	知、技	思、判、表		規準	態度	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	①	観察	①	観察	①	観察	①	記録、観察	①	記録、観察			<u>備考</u> 定期考査
規準	知、技	思、判、表			規準	態度																					
	評価方法	規準	評価方法	規準		評価方法																					
①	観察	①	観察	①	観察																						
①	記録、観察	①	記録、観察																								

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科	科目	担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)	
外国語	英語コミュニケーションI	井上 典仁	2年	2単位	
履修対象	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 -			
教材(出版社)	教科書 Amity English Communication I (開隆堂) 副教材 新ユメタン①(アルク)、REPEAT 英文法ドリル(数研出版)				
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等(全単元共通)		
英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。					
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の単語テスト 音読テスト スピーキングテスト 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 音読テスト スピーキングテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 音読テスト、スピーキングテスト 授業中の発表態度や積極性 提出物の提出状況 学習教材や成果物の管理状況 		
担当者から受講上のアドバイス					
<ul style="list-style-type: none"> 毎回持参するもの 教科書、単語帳(新ユメタン①)、ドリル(REPEAT 英文法ドリル)、紙ファイル、タブレット 辞書について 電子、紙、タブレット端末の辞書機能など、スマホ以外なら、いずれも使用可能です。図書室から紙辞書を借りたら、自宅等に持ち帰らないよう、授業後は速やかに責任を持って返却しましょう。 単語テストについて 単語帳から出題します。10点満点で、基本的に毎時間授業の最初にタブレットを使って実施します。範囲は見開き2ページ分で、UNIT05からスタートします。第1回のテストはp170-173が範囲です。授業で学習する時間は十分とれませんので、自宅等で付属のCDを活用してテストに臨んでください。 音読テストとスピーキングテストについて 音読テストは教科書のLessonが終わるごとに実施します。 音読の評価の観点は、①声の大きさ②明瞭さ③スムーズさ④正確さ⑤まとまり・態度です。 スピーキングテストは音読に加え、本文の内容についてのQ&Aも行います。 その他 授業中に配付するワークシートは必ず紙ファイルに綴じて確実に保管しましょう。 各定期考査後に紙ファイルを集めますので、日頃からプリント類の整理整頓を心がけましょう。 授業中以外の連絡はタブレットのクラスルームで連絡をしますので、頻繁にチェックをお願いします。 					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月中旬	GET READY	数字、文字、品詞	この科目は前学年からの継続履修となるため、Lesson 6からの履修となる。
1学期期末考査(6/27～6/30)			
7月上旬～7月下旬	Lesson 1	be動詞・一般動詞の現在形	
夏季休業日			
9月上旬～9月下旬	Lesson 2	be動詞・一般動詞の過去形	
10月上旬～11月上旬	Lesson 3	進行形/助動詞	
2学期期末考査(11/29～12/2)			
11月中旬～12月下旬	FOCUS+1	be動詞/一般動詞/進行形/助動詞	
冬季休業日			
1月中旬～2月上旬	Lesson 4	不定詞	
学年末考査(2/14～2/17)			
2月下旬～3月下旬	Lesson 5	動名詞	

3 指導と評価の計画

(1) 単元：Lesson6 Our School

<u>単元の目標</u>	
知識及び技能 ものを比べる言い方（比較）を理解し、さまざまな場面で活用すること。	思考力、判断力、表現力等 学校の特長について、紹介すること。
<u>観点別評価規準</u>	
<u>知識、技能</u>	<u>思考、判断、表現</u>
<u>主体的に学習に取り組む態度</u>	
①聞くこと 比較（原級・比較級・最上級）について理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ②読むこと 比較（原級・比較級・最上級）について理解し、それを基に、学校の特長や高校生活でしてみたいことについて書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③話すこと〈やり取り〉 比較（原級・比較級・最上級）について理解し、好きな教科や描かれたイラストについて、比較表現を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④話すこと〈発表〉 比較（原級・比較級・最上級）について理解し、自分の学校の特長や学科、クラブについて、紹介する技能を身につけている。 ⑤書くこと 比較（原級・比較級・最上級）について理解し、自分の学校の特長や学科、クラブについて、書く技能を身につけている。	①聞くこと 他者が考える学校の特長について理解するために、他者が話している内容を聞いて、その概要や要点を捉えている。 ②読むこと 学校の特長や高校生活でしてみたいことについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、好きな教科や描かれたイラストについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、自分の学校の特長や学科、クラブについて、基本的な語句や表現を用いて紹介している。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、自分の学校の特長や学科、クラブについて、基本的な語句や表現を用いて書いている。
①聞くこと 他者が考える学校の特長について理解するために、他者が話している内容を聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。 ②読むこと 学校の特長や高校生活でしてみたいことについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、好きな教科や描かれたイラストについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、自分の学校の特長や学科、クラブについて、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、自分の学校の特長や学科、クラブについて、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。	

<u>教材範囲</u> 教科書P. 54～61	<u>内容のまとめり</u> I 私たちの学校、比較	<u>学習時期（予定）</u> 年度当初～7月上旬	<u>配当時間</u> 12時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>		
	<u>知、技</u>	<u>思、判、表</u>	<u>態度</u>			
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法
種市高等学校について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト
本文確認、インターネット検索	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト
信楽高等学校について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト
本文確認、インターネット検索	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト			③	単元テスト
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト
泉分校の特長について紹介する文を発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト

(2) 単元：Lesson7 Serendipity

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 過去からの継続や経験を表現する言い方（現在完了）を理解し、さまざまな場面で活用すること。		思考力、判断力、表現力等 世の中にはどのようなセレンディピティがあるのか調べ、発表すること。
<u>観点別評価規準</u>		
<u>知識、技能</u> ①聞くこと 現在完了（継続・経験・完了・結果）を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ②読むこと 現在完了（継続・経験・完了・結果）を理解し、それを基に、2つの例について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③話すこと〈やり取り〉 現在完了（継続・経験・完了・結果）を理解し、それを基に、今までの経験などについて、現在完了を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④話すこと〈発表〉 セレンディピティについて、調べたことを基に、発表する技能を身につけている。 ⑤書くこと セレンディピティについて、調べたことを基に、書く技能を身につけている。	<u>思考、判断、表現</u> ①聞くこと 世の中にあるさまざまなセレンディピティについて話されているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。 ②読むこと 世の中にあるさまざまなセレンディピティについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、今まで経験したことや継続していることについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、世の中にあるセレンディピティについて、基本的な語句や表現を用いて発表している。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、世の中にあるセレンディピティについて、基本的な語句や表現を用いて書いている。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①聞くこと 世の中にあるさまざまなセレンディピティについて話されているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。 ②読むこと 世の中にあるさまざまなセレンディピティについてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、今まで経験したことや継続していることについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、世の中にあるセレンディピティ大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて発表しようとしている。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、世の中にあるセレンディピティについて、調べたことを基に、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。

<u>教材範囲</u> 教科書P. 66～73	<u>内容のまとめり</u> I セレンディピティ 現在完了	<u>学習時期（予定）</u> 9月～10月上旬	<u>配当時間</u> 12時間
----------------------------	--------------------------------------	-----------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
ポテトチップスについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで情報共有	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
ふせんについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークでセレンディピティについてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
セレンディピティについて発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(3) 単元：Lesson8 Sapeurs

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 「～される」の言い方（受動態）を理解し、さまざまな場面で活用すること。		思考力、判断力、表現力等 宝物について、伝えること。	
<u>観点別評価規準</u>			
<u>知識、技能</u> ①聞くこと 受動態を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。 ②読むこと 受動態を理解し、それを基に、サプールの人々について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ③話すこと〈やり取り〉 服装や平和のシンボルについて、受動態を用いて伝え合う技能を身につけている。 ④話すこと〈発表〉 人からもらった大切なものについて、受動態を用いて紹介する技能を身につけている。 ⑤書くこと 人からもらった大切なものについて、受動態を用いて書く技能を身につけている。		<u>思考、判断、表現</u> ①聞くこと 他者が人からもらった大切なものについて理解するために、話している内容の概要や要点を捉えている。 ②読むこと サプールの人々の考え方についてまとめるために、書かれた文章の概要や要点を捉えている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、服装や平和のシンボルについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、人からもらった大切なものについて、基本的な語句や表現を用いて紹介している。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、人からもらった大切なものについて、基本的な語句や表現を用いて書いている。	
		<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①聞くこと 他者が人からもらった大切なものについて理解するために、話している内容の概要や要点を捉えようとしている。 ②読むこと サプールの人々の考え方についてまとめるために、書かれた文章の概要や要点を捉えようとしている。 ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、服装や平和のシンボルについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。 ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、人からもらった大切なものについて、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。 ⑤書くこと 読み手に伝わるように、人からもらった大切なものについて、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。	

<u>教材範囲</u> 教科書P. 74～81	<u>内容のまとめ</u> I サプール 受動態	<u>学習時期（予定）</u> 10月中旬～11月下旬	<u>配当時間</u> 12時間
----------------------------	--------------------------------	--------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
サプールについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで服装についてのやりとり	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
サプールの人々の考え方について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで平和のシンボルについてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY、ACTION	③	単元テスト			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
人からもらった大切なものについて発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(4) 単元：Lesson9 Special Makeup Effects

<p>単元の目標</p> <p>知識及び技能 「～している・・・」や「～された・・・」の言い方(分詞の形容詞的用法)を理解し、さまざまな場面で活用すること。</p>		<p>思考力、判断力、表現力等 好きな映画やテレビ番組について、紹介すること。</p>	
<p>観点別評価規準</p>			
<p>知識、技能</p> <p>①聞くこと 分詞の形容詞的用法を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。</p> <p>②読むこと 分詞の形容詞的用法を理解し、それを基に、世界で活躍するカズ・ヒロさんについて書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。</p> <p>③話すこと〈やり取り〉 好きな俳優や映画について、分詞の形容詞的用法を用いて伝え合う技能を身につけている。</p> <p>④話すこと〈発表〉 好きな映画やテレビ番組について、分詞の形容詞的用法を用いて紹介する技能を身につけている。</p> <p>⑤書くこと 好きな映画やテレビ番組について、分詞の形容詞的用法を用いて書く技能を身につけている。</p>		<p>思考、判断、表現</p> <p>①聞くこと 他者が好きな映画やテレビ番組について理解するために、他者が話している内容を聞いて、その概要や要点を捉えている。</p> <p>②読むこと 世界で活躍するカズ・ヒロさんの生き方についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。</p> <p>③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、好きな俳優や映画について、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。</p> <p>④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、好きな映画やテレビ番組について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。</p> <p>⑤書くこと 読み手に伝わるように、好きな映画やテレビ番組について、基本的な語句や表現を用いて書いている。</p>	
		<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①聞くこと 他者が好きな映画やテレビ番組について理解するために、他者が話している内容を聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。</p> <p>②読むこと 世界で活躍するカズ・ヒロさんの生き方についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。</p> <p>③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、好きな俳優や映画について、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。</p> <p>④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、好きな映画やテレビ番組について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。</p> <p>⑤書くこと 読み手に伝わるように、好きな映画やテレビ番組について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。</p>	

<p>教材範囲</p> <p>教科書P. 82～91</p>	<p>内容のまとめり I</p> <p>特殊メイク 分詞の形容詞的用法</p>	<p>学習時期(予定)</p> <p>12月～2月上旬</p>	<p>配当時間</p> <p>12時間</p>
--------------------------------	---	---------------------------------	-------------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知、技		思、判、表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
カズ・ヒロさんの特殊メイク技術について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで世界で活躍する人物についてやりとり	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
カズ・ヒロさんが特殊メイク技術を学んだ方法について音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで好きな映画についてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト ワークシート			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
好きな映画やテレビ番組について発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

(5) 単元：Lesson10 Clean Water

<u>単元の目標</u>		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	
「～する・・・」の言い方（関係代名詞）を理解し、さまざまな場面で活用すること。		自分の生活を振り返り、どのように水分を摂っているか説明すること。
<u>観点別評価規準</u>		
知識、技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①聞くこと 関係代名詞を理解し、それを基に、英文の内容を聞き取る技能を身につけている。	①聞くこと 他者の水分の摂り方について話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えている。	①聞くこと 他者の水分の摂り方について理解するために、話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。
②読むこと 関係代名詞を理解し、それを基に、小田兼利さんの生き方について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。	②読むこと 小田兼利さんの生き方についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えている。	②読むこと 小田兼利さんの生き方についてまとめるために、書かれた文章の概要を捉えようとしている。
③話すこと〈やり取り〉 有名な発明家や将来の夢などについて、関係代名詞を用いて伝え合う技能を身につけている。	③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、有名な発明家や将来の夢などについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合っている。	③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、有名な発明家や将来の夢などについて、基本的な語句や表現を用いて伝え合おうとしている。
④話すこと〈発表〉 水分の摂り方について、紹介する技能を身につけている。	④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、水分の摂り方について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。	④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、水分の摂り方について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。
⑤書くこと 水分の摂り方について、紹介する技能を身につけている。	⑤書くこと 読み手に伝わるように、水分の摂り方について、基本的な語句や表現を用いて書いている。	⑤書くこと 読み手に伝わるように、水分の摂り方について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。

<u>教材範囲</u> 教科書P. 92～101	<u>内容のまとめり</u> I 安全な水 関係代名詞	<u>学習時期（予定）</u> 2月中旬～3月	<u>配当時間</u> 12時間
-----------------------------	-----------------------------------	----------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	<u>知、技</u>		<u>思、判、表</u>		<u>態度</u>		
	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	<u>規準</u>	<u>評価方法</u>	
水の大切さについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで好きな飲み物についてやりとり	①	単元テスト	②③	単元テスト	③	単元テスト	
バングラデシュについて音読とQ&A、T/F	②	単元テスト 音読テスト			②	単元テスト 音読テスト	
ペアワークとグループワークで有名な発明家についてのやりとり	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト ワークシート	③	単元テスト	
FOCUS、SKILLS、TRY	③	単元テスト ワークシート			③	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤	単元テスト	①② ③⑤	単元テスト	③⑤	単元テスト	
水分の摂り方について発表	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	④	パフォーマンステスト	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 家庭	科目 家庭総合	担当者(主) 西山 智美	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 2単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 -			
教材(出版社)	教科書 家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	副教材 家庭科学習ノート (熊本県高等学校教育研究会家庭部会)			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。					
知識及び技能 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身につけている。	思考力、判断力、表現力等 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	学びに向かう力、人間性等 (全単元共通) 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。			
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。					
知識・技能 ・定期考査 ・実習 ・ホームプロジェクト (まとめ・発表の仕方)	思考・判断・表現 ・実習や映像視聴、資料等の感想記述 ・ホームプロジェクト (まとめ・発表の仕方)	主体的に学習に取り組む態度 ・実習態度 ・学習プリント記述 ・忘れ物 ・ホームプロジェクト			
担当者から受講上のアドバイス 家庭科は「自分の生活」が教材です。しっかりと「自分」を振り返りながら学習に臨んでください。授業で思ったこと、感じたこと、考えたことは積極的に発言しましょう。そして、他の人がどのような考えを持っているかを知り、聞きましょう。多様な生き方に触れ、豊かな人生となるような学習にしてください。期限や時間は守りましょう。また、苦手な分野があっても、意欲的に取り組んで欲しいと思います。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月下旬	家族・社会との共生	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (4) 高齢期の生活と福祉	
6月下旬～7月上旬	家族・社会との共生	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (5) 共生生活と福祉	
7月下旬～10月下旬	生活の自立	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	
11月上旬～1月上旬	生活の自立	B 衣食住の生活の自立と設計 (2) 衣生活と健康	
1月下旬～3月下旬	生活の自立	B 衣食住の生活と設計 (3) 住生活と住環境	

(1) 単元：第4章 超高齢社会を生きる

<p><u>単元の目標</u></p> <table border="1"> <tr> <td> <p>知識及び技能</p> <p>○高齢期の心身の特徴を理解する。 ○高齢期の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解を深める。 ○高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。 ○高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題を理解する。 ○高齢者福祉について理解する。</p> </td> <td> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○高齢者の自立支援を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ○高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について工夫する。</p> </td> </tr> </table>		<p>知識及び技能</p> <p>○高齢期の心身の特徴を理解する。 ○高齢期の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解を深める。 ○高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。 ○高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題を理解する。 ○高齢者福祉について理解する。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○高齢者の自立支援を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ○高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について工夫する。</p>	
<p>知識及び技能</p> <p>○高齢期の心身の特徴を理解する。 ○高齢期の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解を深める。 ○高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。 ○高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題を理解する。 ○高齢者福祉について理解する。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○高齢者の自立支援を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ○高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について工夫する。</p>			
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1"> <tr> <td> <p>知識・技能</p> <p>① 高齢期の心身の特徴について理解している。 ② 高齢期の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解を深めている。 ③ 高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ④ 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について、情報の収集・整理ができる。 ⑤ 高齢者福祉について理解している。</p> </td> <td> <p>思考・判断・表現</p> <p>① 高齢者の自立支援について問題を見いだして課題を設定している。 ② 高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法について考え、工夫している。 ③ 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④ 高齢者福祉についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p> </td> <td> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>高齢者との適切な関わりについて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p> </td> </tr> </table>		<p>知識・技能</p> <p>① 高齢期の心身の特徴について理解している。 ② 高齢期の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解を深めている。 ③ 高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ④ 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について、情報の収集・整理ができる。 ⑤ 高齢者福祉について理解している。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>① 高齢者の自立支援について問題を見いだして課題を設定している。 ② 高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法について考え、工夫している。 ③ 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④ 高齢者福祉についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>高齢者との適切な関わりについて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p>
<p>知識・技能</p> <p>① 高齢期の心身の特徴について理解している。 ② 高齢期の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解を深めている。 ③ 高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための技能を身に付けている。 ④ 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について、情報の収集・整理ができる。 ⑤ 高齢者福祉について理解している。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>① 高齢者の自立支援について問題を見いだして課題を設定している。 ② 高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法について考え、工夫している。 ③ 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④ 高齢者福祉についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>高齢者との適切な関わりについて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p>		
<p><u>教材範囲</u></p> <p>教科書 p 76～91</p>	<p><u>内容のまとめり I</u></p> <p>A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (4) 高齢期の生活と福祉</p>	<p><u>学習時期(予定)</u></p> <p>年度当初～6月下旬</p>	<p><u>配当時間</u></p> <p>12時間</p>	

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 超高齢・大衆長寿社会の到来	①						・なぜ、高齢者について学ぶのか？ ・高齢者のイメージアンケート
2 高齢期の心身の特徴	①② ③④ ⑤	・定期考査 ・ワークシート	①②	・ノートやレポートにおける記述 ・行動観察		・ワークシート ・行動観察 ・提出状況	・高齢者疑似体験 ・DVD視聴「ペコロスの母に会いに行く」 ・介護サービス調べ
3 高齢者の自立を支える	④		②③				・認知症検査 ・車いす介助体験 ・介護食・食事介助 ・着脱衣
4 これからの超高齢社会	⑤		④				・高齢社会の現状について考える

(2) **単元：5章 共に生き、共に支える**

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○生涯を通して、家族・家庭の支える福祉や社会的支援について理解する。 ○家庭と地域との関わりについて理解する。 ○高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解する。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○家庭や地域及び社会の一員としての自覚を持って、共に支え合うことの重要性について考察する。</p>
<u>観点別評価規準</u>		
<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>① 自助・共助・公助について理解している。 ② 社会保障制度の仕組みについて理解している。 ③ 社会保障制度について情報の収集・整理ができる。 ④ ノーマライゼーションの意味とユニバーサルデザインについて理解している。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>① 自助・共助・公助について理解を深めている。 ② 社会保障制度の仕組みについて自分がどのように関わるのかについて考え、工夫している。 ③ よりよい社会のために、他者と共に支え合うことについて、事例を通して実践を評価したり、改善したりしている。 ④ 共生社会についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>社会の一員として、自分の役割を自覚し、主体的に他者と協力・協働しながら、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p>

<u>教材範囲</u> 教科書 p 94～103	<u>内容のまとめり I</u> A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (5) 共生生活と福祉	<u>学習時期 (予定)</u> 6月下旬～7月上旬	<u>配当時間</u> 5 時間
-----------------------------	---	-------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 私たちの生活と福祉	①	・定期考査 ・ワークシート	①	・ノートやレポート等における記述		・ノートやレポート等における記述	共生社会とは何か？ 防災マップを見る
2 社会保障の考え方	②③		②③	・生徒の自己評価や相互評価		・行動観察	社会保障の仕組み
3 共に生きる	④		③④				ノーマライゼーションとユニバーサルデザインについて

(3) 単元：第9章 経済生活を営む

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費生活の現状と課題を理解する。 ○消費行動における意志決定について理解する。 ○意志決定にもとづいた契約の仕組みについて理解する。 ○消費者保護の仕組みについて理解する。 ○生活情報を適切に収集・整理できる。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○自分の状況に応じた意志決定の重要性について考察する。 ○適切な意志決定に基づいて行動するために、生活情報を活用し、責任ある消費について考察し、工夫する。</p>
<u>観点別評価規準</u>		
<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>①消費者の権利と責任を自覚し、その現状と課題を理解している。 ②消費行動における意志決定について理解している。 ③意志決定にもとづいた契約の仕組みについて理解している。 ④消費者保護の仕組みについて理解している。 ⑤生活情報を適切に収集・整理ができる。 ⑥経済的に自立するために、生涯を見通して働くことの必要性を理解している。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>①消費者の権利と責任について問題を見いだして課題を設定している。 ②消費行動における適切な意志決定について考え、工夫している。 ③意志決定にもとづいた契約について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④自分の生活状況に合った意志決定をもとに、適切に消費行動を送ることについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>消費者の一員として、自分の状況に応じた意志決定をもとに、適切な消費行動について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p>

<u>教材範囲</u> 教科書 p 230～251	<u>内容のまとめり I</u> C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	<u>学習時期 (予定)</u> 7月下旬～10月下旬	<u>配当時間</u> 17時間
------------------------------	---	--------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 情報の収集・比較と意志決定	①②	・定期考査 ・ワークシート	①	・ノートやレポート等における記述 ・生徒の自己評価		・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	・なぜ、経済生活について学ぶのか？ ・悪質商法の例 ・広告を疑ってみる
2 購入・支払いのルールと方法	②③		②	評価や相互評価			・多様な支払い方法のメリット・デメリット
3 消費者の権利と責任	③④		③				・冊子「社会への扉」を使っての消費生活クイズ
4 生涯の経済生活を見通す	⑥						・職業観アンケート
5 家計をマネジメントする	⑤⑥		④				・お小遣いアンケート ・一生涯に必要なお金計算
6 これからの経済生活	⑤⑥						・求人票・給与明細を見る ・どんな消費者になりたいか考えよう

(4) 単元：第7章 衣生活をつくる

<p>単元の目標</p> <p>知識及び技能</p> <p>○衣生活を取り巻く課題や日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解する。 ○ライフステージの特徴を踏まえ、身体特性と機能及び着装について理解する。 ○健康、安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ○被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解する。 ○被服構成、被服製作に関する基本的な技能を身に付ける。</p>		<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○主体的に衣生活を営むことができるよう、目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について考え、工夫する。 ○日本の衣文化の継承・創造について考察し、工夫する。</p>
<p>観点別評価規準</p>		
<p>知識・技能</p> <p>①日本と世界の衣文化について理解している。 ②被服と人との関わりについて理解を深めている。 ③ライフステージの特徴を踏まえ、人の体型や生理特性、運動特性等をと関連づけて理解している。 ④身体特性と被服の機能及び着装について理解している。 ⑤健康、安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。 ⑥被服材料、被服校生、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解している。 ⑦被服構成、被服製作に関する基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>①衣生活を取り巻く課題について問題を見いだして課題を設定している。 ②目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について、実践に向けた計画を考え、工夫している。 ③自己の生活状況に応じた衣生活の計画について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④主体的に衣生活を営むことについての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的な衣生活を営むことについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</p>

<p>教材範囲</p> <p>教科書 p 160～201</p>	<p>内容のまとめり I</p> <p>B 衣食住の生活の自立と設計 (2) 衣生活と健康</p>	<p>学習時期 (予定)</p> <p>11月上旬～1月上旬</p>	<p>配当時間</p> <p>20時間</p>
----------------------------------	---	------------------------------------	-------------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価			備考	
	知・技	思・判・表	態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 被服の役割を考える	①②	・定期考査 ・ワークシート	①	・ノートやレポート等における記述	・なぜ、衣服を着るのか？なぜ、衣生活について学ぶのか？
2 被服を入手する	③④		②	・生徒の自己評価や相互評価	・布の違い観察
3 被服を管理する	⑤⑥		②③	・行動観察 ・実習態度	・制服の表示調べ ・洗剤が落ちる仕組み観察
4 被服を作る	⑥⑦				・裁縫用具・ミシンの名称、扱い方 ・基礎縫い
5 衣生活の文化と知恵	⑦				・生活文化と衣服との関係
6 これからの衣生活	①⑦		④		・全ての人が楽しめる衣生活

(5) 単元：第8章 住生活をつくる

<p><u>単元の目標</u></p> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化、住まいと人との関わりについて理解する。 ○ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解する。 ○住生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ○家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解する。 ○快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理する。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○主体的に住生活を営むことができるよう、ライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくりについて考察し、工夫する。 ○日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫する。</p>
<p><u>観点別評価規準</u></p>		
<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>①住生活を取り巻く課題について理解している。 ②日本と世界の住文化、住まいと人との関わりについて、ライフステージに応じた住まいの在り方について理解している。 ③ライフステージの特徴や課題を踏まえた住生活の特徴、防災や自然環境に配慮した住居の機能について科学的に理解している。 ④住生活に必要な計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ⑤家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解している。 ⑥快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理ができる。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>①住生活を取り巻く課題について問題を見いだして課題を設定している。 ②ライフステージの特徴や課題を踏まえた住生活の特徴について考え、工夫している。 ③自己や家族の状況と環境に応じた住生活とまちづくりについて、実践を評価したり、改善したりしている。 ④家族のライフスタイルライフステージに応じた住環境や、日本の住文化を踏まえた住生活についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいてまとめ、表現している。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>快適で安全な住生活を計画することについて、自分や家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p>

<p><u>教材範囲</u></p> <p>教科書 p 202～229</p>	<p><u>内容のまとめり I</u></p> <p>B 衣食住の生活と設計 (3) 住生活と住環境</p>	<p><u>学習時期 (予定)</u></p> <p>1月下旬～3月上旬</p>	<p><u>配当時間</u></p> <p>16時間</p>
---	--	--	--------------------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価			備考			
	知・技	思・判・表	態度				
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 住生活の変遷と機能	①②	・定期考査 ・ワークシート	①	・ノートやレポート等における記述 ・生徒の自己評価や相互評価	規準	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察	・人はなぜ住まうのか？なぜ、住生活について学ぶのか？ ・物件情報を読み取る
2 安全で快適な住生活の計画	②③④		②③	評価			・ライフステージの違いによる必要な物件を考えてみよう
3 住生活の文化と知恵	④⑤		③				・日本の住宅・世界の住宅について調べてみよう
4 これからの住生活	⑥		④				・理想の住まいを考えてみよう

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 総合実習	担当者(主) 中原 武徳	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 2単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書 教科書はないため、指導案をもとに授業展開する	副教材 「農業と環境」や「アウトドア」関係の本、資料・プリントを使用			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり 有
科目の目標 農業やアウトドアライフの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業・アウトドアライフの各分野の改善を図る実践的な資質・能力を育成することを目指す。					
知識及び技術 農業やアウトドアライフを総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。		思考力、判断力、表現力等 農業、アウトドアライフに関する総合的な課題を発見し、農業や関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 農業、アウトドアライフの総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業、アウトドアライフの振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
具体的な評価の方法 定期考査と実技・実習を中心に評価します。					
知識、技術 ・定期考査 ・実習(実技)		思考、判断、表現 ・定期考査(記述) ・実習(実技)		主体的に学習に取り組む態度 ・授業・実習中の学習態度 ・提出物の提出	
担当者から受講上のアドバイス ・授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にしてください。 ・実習後、実習ノートの記入があります。後で見えてわかるように丁寧に記入してください。また、提出の必要があります。 ・実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～6月上旬	家庭菜園を作ろう	栽培植物の選定 耕耘・畝立て・マルチ張り 播種・育苗 定植・管理(7月から収穫)	
6月上旬～7月上旬	釣りに行こう	仕掛け作り 溪流釣り	
7月上旬～9月上旬	キャンプに行こう	テント張り キャンプ飯づくり	
9月上旬～10月上旬	カヌーに乗ろう	カヌーの基本操作 溪流での実技	
10月中旬～12月中旬	マウンテンバイク	マウンテンバイクの基礎・基本 マウンテンバイク実技①グラウンド マウンテンバイク実技②コース マウンテンバイク実技③ロード	
9月上旬～12月上旬	花苗を作ろう	耐寒性草花の選定 播種・育苗 仮植・育苗 花壇整備・植え付け	
1月～3月	プレゼンテーション作成	泉分校の農業この1年 泉分校の活動この1年	

3 指導と評価の計画

(1) **単元：家庭菜園を作ろう**

<u>単元の目標</u>		知識及び技術		思考力、判断力、表現力等	
<ul style="list-style-type: none"> 植物の栽培管理について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 農業の総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 			
<u>観点別評価規準</u>					
知識、技術		思考、判断、表現		主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ①各作業工程（栽培・管理）の目的を理解する。 ②植物の生育にとって環境条件が大切であることを理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①植物の成長過程における適切な管理の必要性が判断できる。 ②植物の成長過程における適切な作業ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①植物の生育過程における状況を把握し、事前に対応できる能力と態度を養う。 	
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期（予定）</u>	
プリント		家庭菜園を作ろう		年度当初～6月上旬	
				配当時間 12時間	
<u>観点別学習評価</u>					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>					
		知、技		思、判、表	
		規準		規準	
		評価方法		評価方法	
				態度	
				規準	
				評価方法	
				備考	
栽培植物の選定				① 取り組み	
耕耘・畝立て・マルチ張り		①② 実習		① 取り組み	
播種・育苗		①② 実習		① 取り組み	
定植・管理（7月から収穫）		①② 実習		① 取り組み	

(2) **単元：アウトドアライフ**

<u>単元の目標</u>		知識及び技術		思考力、判断力、表現力等	
<ul style="list-style-type: none"> アウトドアライフについての基礎・基本を理解し、実際にアウトドアライフができる。 自然との関わりの中でアウトドアライフが心身に良い影響を及ぼすことが理解できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 得た知識と経験を活かし、様々な野外活動にチャレンジし、自ら考え行動できる態度を養う。 			
<u>観点別評価規準</u>					
知識、技術		思考、判断、表現		主体的に学習に取り組む態度	
<ul style="list-style-type: none"> ①アウトドアライフについての基礎・基本を理解し、実際にアウトドアライフができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①アウトドアライフを仲間と協力して実施できるように主体的な判断ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①自然環境はもとより自分の生き方にも関心を持ち、意欲的に行動する能力と態度を養う。 	
<u>教材範囲</u>		<u>内容のまとめり I</u>		<u>学習時期（予定）</u>	
学習内容別プリント		アウトドアライフ		6月上旬～12月	
				配当時間 40時間	
<u>観点別学習評価</u>					
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>					
		知、技		思、判、表	
		規準		規準	
		評価方法		評価方法	
				態度	
				規準	
				評価方法	
				備考	
溪流釣りに行こう		① 確認テスト		① 計画・実施	
キャンプに行こう		① 確認テスト		① 計画・実施	
トレッキングに行こう		① 確認テスト		① 計画・実施	
マウンテンバイク		① 確認テスト		① 計画・実施	

(3) **単元：花苗を作ろう**

<u>単元の目標</u>		知識及び技術	思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> 植物の栽培管理について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 農業の総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 	
<u>観点別評価規準</u>			
知識、技術		思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①各作業工程（栽培・管理）の目的を理解する。 ②植物の生育にとって環境条件が大切であることを理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①植物の成長過程における適切な管理の必要性が判断できる。 ②植物の成長過程における適切な作業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①植物の生育過程における状況を把握し、事前に対応できる能力と態度を養う。
<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめり I</u>	<u>学習時期（予定）</u>	<u>配当時間</u>
プリント	花苗を作ろう	9月上旬～12月上旬	10時間
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>		
	知、技	思、判、表	態度
	規準	規準	規準
	評価方法	評価方法	評価方法
			備考
耐寒性草花の選定			① 取り組み
播種・育苗	①② 実習	①② 実習	① 取り組み
仮植・育苗	①② 実習	①② 実習	① 取り組み
花壇整備・植え付け	①② 実習	①② 実習	① 取り組み

(4) **単元：プレゼンテーション作成**

<u>単元の目標</u>		知識及び技術	思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> 実際に実施したアウトドアライフや調査・観察したものごとを系統立ててまとめることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 発表会においてわかりやすく自分のものとして発表ができる。 	
<u>観点別評価規準</u>			
知識、技術		思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①アウトドアライフの各項目別目的が理解できる。 ②アウトドアライフの各項目別知識・技能が自分のものとなっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ①発表会においてわかりやすく自分のものとして発表ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一年間の学習の内容を主体的にまとめ、わかりやすく発表する能力と態度を養う。
<u>教材範囲</u>	<u>内容のまとめり I</u>	<u>学習時期（予定）</u>	<u>配当時間</u>
プリント	プレゼンテーション作成	1月～3月	8時間
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>		
	知、技	思、判、表	態度
	規準	規準	規準
	評価方法	評価方法	評価方法
			備考
アウトドアライフのまとめ	①② 作品	① 発表	① 取り組み

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 農業と情報	担当者（主） 中原 武徳	履修年次（今年度） 2年	単位数（今年度） 1単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材（出版社）	教科書 農業と情報(実務教育)	副教材		
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり 有				
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
知識及び技術 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	思考力、判断力、表現力等 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する能力を養う。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。				
知識、技術 ・定期考査(実技) ・演習(実技)	思考、判断、表現 ・定期考査(記述) ・演習(実技)	主体的に学習に取り組む態度 ・授業中の学習態度 ・提出物(演習印刷物)の提出		
担当者から受講上のアドバイス ・授業中の演習に十分な時間を取りますので理解を深めてください。 ・分からない部分は、その時間中に質問し、解決する癖を付けましょう。 ・印刷物の提出は、確実にいきましょう。 ・				

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
4月上旬～12月中旬	コミュニケーションと情報デザイン	文書の作成と表現	
		データの集計と視覚化	
		画像・図形処理ソフトウェア利用	
		プレゼンテーション	
		情報発信(web ページ)	
1月～3月	スマート農業への展望	スマート農業の目指す将来	
		プログラムの設計	
		計測と制御	

3 指導と評価の計画

(1) **単元：3章、コミュニケーションと情報デザイン**

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な情報収集と記録の重要性を理解する。 ・ 情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解する。 ・ 情報を活用するソフトウェアについて理解する。 		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種、ソフトウェアの活用方法を理解し、農業情報に関する課題を解決する合理的かつ創造的に解決する能力を養う。
<u>観点別評価規準</u> <p style="text-align: center;">知識、技術</p> <p>①情報の収集・処理を適切に行うことの重要性が理解できる。</p> <p>②情報を処理するためのソフトウェアの活用について理解できる。</p>		<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> <p>①情報を適切に処理し、その結果から問題解決方法を主体的に考えることができる。</p> <p>②適切な情報処理をするソフトウェアの使用について判断できる。</p>
<p style="text-align: right;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①情報を正しく認識・処理して社会生活を改善していく態度を養う。</p>		

<u>教材範囲</u> P 5 8～P 1 3 2	<u>内容のまとめり I</u> コミュニケーションと情報デザイン	<u>学習時期（予定）</u> 6月上旬～12月中旬	<u>配当時間</u> 38時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	
文書の作成と表現	② 確認テスト	② 作品提出	① 取り組み	
データの集計と視覚化	①② 確認テスト	①② 作品提出	① 取り組み	
画像・図形処理ソフトウェア利用	①② 確認テスト	①② 作品提出	① 取り組み	
プレゼンテーション	①② 確認テスト	①② 作品提出	① 取り組み	
情報発信 (web ページ)	① 確認テスト			

(2) **単元：4章、スマート農業への展望**

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業の仕組みを理解する。 ・ データの重要性や農業情報システムの役割を理解する。 ・ A I やロボットの農業への利用や可能性を理解する。 		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する能力を養う。
<u>観点別評価規準</u> <p style="text-align: center;">知識、技術</p> <p>①スマート農業を推進していくために農業情報の処理システムについて理解できる。</p> <p>②A I やロボットによる農作業の省力化について理解できる。</p>		<p style="text-align: center;">思考、判断、表現</p> <p>①スマート農業を実践するためには農業情報の処理システムが必要なことが判断できる。</p> <p>②A I やロボットによる農作業の省力化について理解し、活用しようとする。</p>
<p style="text-align: right;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①情報を正しく認識・処理して社会生活を改善していく態度を養う。</p>		

<u>教材範囲</u> P 1 3 4～P 1 5 0	<u>内容のまとめり I</u> スマート農業への展望	<u>学習時期（予定）</u> 1月～3月	<u>配当時間</u> 10時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	<p style="text-align: center;">知、技</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">思、判、表</p> 規準 評価方法	<p style="text-align: center;">態度</p> 規準 評価方法	
スマート農業の目指す将来	①② 確認テスト	①② レポート		
プログラムの設計	① 確認テスト	① 作品提出	① 取り組み	
計測と制御	①② 確認テスト	①② レポート		

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 森林科学	担当者（主） 山口 淳也	履修年次（今年度） 2 年	単位数（今年度） 2 単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材（出版社）	教科書 森林科学（実教出版）	副教材			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1 学期中間 ※ 5 月中旬あたり -	1 学期期末 ※ 7 月上旬あたり 有	2 学期中間 ※ 1 0 月中旬あたり -	2 学期期末 ※ 1 2 月上旬あたり 有	学年末 ※ 3 年：1 月末 他：2 月中旬あたり 有
科目の目標 農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、森林の構造や機能並びに保全技術などを科学的に捉えるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
知識及び技能 森林科学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	思考力、判断力、表現力等 森林科学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 森林を科学的に捉えるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
具体的な評価の方法					
知識・技能 ・定期考査 ・小テスト（農業鑑定競技を含む）	思考・判断・表現 ・定期考査 ・レポート（提出物） ・小テスト（農業鑑定競技を含む）	主体的に学習に取り組む態度 ・授業に取り組む態度 ・レポート（提出物） ・小テスト（農業鑑定競技を含む）			
担当者から受講上のアドバイス 1 授業には「教科書」「ファイル」「ChromeBook」「実習服等」を使います。 2 定期考査では「知識・技能」「思考・判断・表現」を重点的に評価します。 3 「主体的に学習に取り組む態度」については、授業に取り組む姿勢を重点的に評価します。 4 レポートについては、提出期限を重視します。 5 実習については、忘れ物の確認を行い、実習に取り組む姿勢を重点的に評価します。 6 農業クラブ活動（農業鑑定競技等）についても評価に含めます。					

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめり	備考
年度当初～5月中旬	第1章 森林科学とプロジェクト学習	第1節 森林科学とプロジェクト学習の意義 第2節 プロジェクト学習の進め方 第3節 森林科学におけるプロジェクト学習	
5月～9月	第2章 森林と樹木	第1節 森林の定義と分類 第2節 樹木の特性 第3節 森林の立地環境	
10月～3月	第3章 森林生態系の構造と多面的機能	第1節 森林生態系の構造 第2節 森林植生遷移と森林の発達段階 第3節 森林の多面的機能	

(1) 単元：第1章 森林科学とプロジェクト学習

<p><u>単元の目標</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align: center;">知識及び技能</td> <td style="width:50%; text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</td> </tr> <tr> <td>「森林科学」とプロジェクト学習について、森林を科学的に捉え、自ら学び取り組むことができる。</td> <td>「森林科学」とプロジェクト学習について、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。</td> </tr> </table>								知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	「森林科学」とプロジェクト学習について、森林を科学的に捉え、自ら学び取り組むことができる。	「森林科学」とプロジェクト学習について、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。																		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等																												
「森林科学」とプロジェクト学習について、森林を科学的に捉え、自ら学び取り組むことができる。	「森林科学」とプロジェクト学習について、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。																												
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%; text-align: center;">知識・技能</td> <td style="width:33%; text-align: center;">思考・判断・表現</td> <td style="width:33%; text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</td> </tr> <tr> <td>①森林科学に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身につける。</td> <td>①森林科学に関する課題を発見し、プロジェクト学習により、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。</td> <td>①森林科学について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組む。</td> </tr> </table>								知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	①森林科学に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身につける。	①森林科学に関する課題を発見し、プロジェクト学習により、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	①森林科学について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組む。																
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度																											
①森林科学に関するプロジェクト学習の意義や進め方について理解するとともに、関連する技術を身につける。	①森林科学に関する課題を発見し、プロジェクト学習により、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	①森林科学について自ら学び、プロジェクト学習に必要な情報収集と分析に主体的かつ協働的に取り組む。																											
<p><u>教材範囲</u> 教科書 P1～2</p>		<p><u>内容のまとめり I</u> 第1節「森林科学」とプロジェクト学習の意義</p>			<p><u>学習時期（予定）</u> 年度当初～5月中旬</p>		<p><u>配当時間</u> 2 時間</p>																						
<p><u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u></p>		<p><u>観点別学習評価</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> <tr> <td colspan="2">1. プロジェクト学習の意義</td> <td>①</td> <td>定期考査 小テスト</td> <td>①</td> <td>レポート</td> <td>①</td> <td>授業への 取り組み</td> <td>農業クラブ活動を含む。</td> </tr> </table>						知・技		思・判・表		態度		備考	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	1. プロジェクト学習の意義		①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。
		知・技		思・判・表		態度		備考																					
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																								
1. プロジェクト学習の意義		①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。																					
<p><u>教材範囲</u> 教科書 P3～4</p>		<p><u>内容のまとめり II</u> 第2節プロジェクト学習の進め方</p>			<p><u>学習時期（予定）</u> 年度当初～5月中旬</p>		<p><u>配当時間</u> 2 時間</p>																						
<p><u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u></p>		<p><u>観点別学習評価</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> <tr> <td colspan="2">2. プロジェクト学習の進め方</td> <td>①</td> <td>定期考査 小テスト</td> <td>①</td> <td>レポート</td> <td>①</td> <td>授業への 取り組み</td> <td>農業クラブ活動を含む。</td> </tr> </table>						知・技		思・判・表		態度		備考	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	2. プロジェクト学習の進め方		①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。
		知・技		思・判・表		態度		備考																					
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																								
2. プロジェクト学習の進め方		①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。																					
<p><u>教材範囲</u> 教科書 P5～6</p>		<p><u>内容のまとめり III</u> 第3節「森林科学」におけるプロジェクト学習の例</p>			<p><u>学習時期（予定）</u> 年度当初～5月中旬</p>		<p><u>配当時間</u> 2 時間</p>																						
<p><u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u></p>		<p><u>観点別学習評価</u></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> <tr> <td colspan="2">3. プロジェクト学習の例</td> <td>①</td> <td>定期考査 小テスト</td> <td>①</td> <td>レポート</td> <td>①</td> <td>授業への 取り組み</td> <td>農業クラブ活動を含む。</td> </tr> </table>						知・技		思・判・表		態度		備考	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	3. プロジェクト学習の例		①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。
		知・技		思・判・表		態度		備考																					
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																								
3. プロジェクト学習の例		①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。																					

(2) 単元：第2章 森林と樹木

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 森林と樹木について、森林の定義やさまざまな森林のタイプ、個々の樹木について理解する。		思考力、判断力、表現力等 森林と樹木について、森林の定義やさまざまな森林のタイプ、個々の樹木について科学的な根拠に基づいて創造的に学習を進めることができる。
<u>観点別評価規準</u>		
知識・技能 ①森林と樹木について理解するとともに、関連する技術を身につける。	思考・判断・表現 ①森林と樹木に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。	主体的に学習に取り組む態度 ①森林と樹木について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

<u>教材範囲</u> 教科書 P7～11	<u>内容のまとめり I</u> 第1節 森林の定義と分類	<u>学習時期(予定)</u> 5月～9月	<u>配当時間</u> 4 時間
--------------------------	---	--------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 森林の定義	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	
2 森林の分類	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	

<u>教材範囲</u> 教科書 P12～38	<u>内容のまとめり II</u> 第2節 樹木の特性	<u>学習時期(予定)</u> 5月～9月	<u>配当時間</u> 14 時間
---------------------------	---------------------------------------	--------------------------	----------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 樹木の形態と内部構造	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。
2 樹冠構造と幹の成長	①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。
3 樹木の識別と日本の樹木	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	農業クラブ活動を含む。

<u>教材範囲</u> 教科書 P39～68	<u>内容のまとめり III</u> 第3節 森林の立地環境	<u>学習時期(予定)</u> 5月～9月	<u>配当時間</u> 14 時間
---------------------------	--	--------------------------	----------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 気象因子	①	定期考査	①	レポート	①	授業への 取り組み	
2 土地因子	①	定期考査 小テスト	①	レポート	①	授業への 取り組み	

(3) 単元：第3章 森林生態系の構造と多面的機能

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 森林生態系の構造と多面的機能について、森林の発達段階を踏まえた森林生態系の構造や森林生態系の果たす地球や地域に対する大きな機能や意義について理解する。		思考力、判断力、表現力等 森林生態系の構造と多面的機能について、森林の発達段階を踏まえた森林生態系の構造や森林生態系の果たす地球や地域に対する大きな機能や意義について、科学的な根拠に基づいて創造的に学習を進める。	
<u>観点別評価規準</u>			
知識・技能 ① 森林生態系の構造と多面的機能について理解するとともに、関連する技術を身につける。		思考・判断・表現 ① 森林生態系の構造と多面的機能に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する。	
		主体的に学習に取り組む態度 ① 森林生態系の構造と多面的な機能について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	
<u>教材範囲</u> 教科書 P 69～82		<u>内容のまとめり I</u> 第1節 森林生態系の構造	
		<u>学習時期（予定）</u> 10月～3月	
		<u>配当時間</u> 12時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>	
		知・技 規準 評価方法 ① 定期考査	
		思・判・表 規準 評価方法 ① 定期考査レポート	
		態度 規準 評価方法 ① 授業への取り組み	
1 生態系とは何か		① 定期考査	
2 森林生態系の特徴		① 定期考査レポート	
<u>教材範囲</u> 教科書 P 83～89		<u>内容のまとめり II</u> 第2節 森林植生遷移と森林の発達段階	
		<u>学習時期（予定）</u> 10月～3月	
		<u>配当時間</u> 8時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>	
		知・技 規準 評価方法 ① 定期考査	
		思・判・表 規準 評価方法 ① レポート	
		態度 規準 評価方法 ① 授業への取り組み	
1 植物群落の遷移		① 定期考査	
2 遷移と森林管理		① レポート	
<u>教材範囲</u> 教科書 P 90～108		<u>内容のまとめり III</u> 第3節 森林の多面的機能	
		<u>学習時期（予定）</u> 10月～3月	
		<u>配当時間</u> 12時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>	
		知・技 規準 評価方法 ① 定期考査小テスト	
		思・判・表 規準 評価方法 ① 定期考査	
		態度 規準 評価方法 ① 授業への取り組み	
1 森林の多面的機能		① 定期考査小テスト	
2 森林の多面的機能の発達と階層性		① 定期考査	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農 業	科目 林産物利用	担当者(主) 山口 淳也	履修年次(今年度) 2 年	単位数(今年度) 2 単位
履修対象 グリーンコース必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有		
教材(出版社)	教科書 林産物利用(実教出版)	副教材 なし		
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有
<p>学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり 有</p>				
<p>科目の目標</p> <p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、林産物の利用に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 林産物の利用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 林産物の利用に関する課題を発見し、農業や農業関連作業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 林産物が多様な利用につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
知識及び技能 森林資源の活用、林産業の概要、製材・加工と木工、木材や特用林産物の加工と利用に必要な知識と技術を体系的・系統的に理解し、身につけるようにする。	思考力、判断力、表現力等 森林資源の活用、林産業の概要、製材・加工と木工、木材や特用林産物の加工と利用に関する課題を発見し、地域の林産業や社会的な意義と役割を踏まえ科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う。	学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 森林資源を活用する林産物利用の学習を通して、林産業が「地球の未来を創る産業」「地域を創造する産業」であることを理解し、循環資源としての森林の多面的な利用を図るとともに地域振興に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
<p>具体的な評価の方法</p> <p>授業や実習を通じた3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。</p>				
知識・技能 ①定期考査・小テスト ②農業鑑定競技 ③授業記録・レポート等	思考・判断・表現 ①定期テスト・小テスト ②木材加工実技 ③授業記録・レポート等 ④農業クラブ活動(意見発表等)	主体的に学習に取り組む態度 ①定期テスト ②木材加工実技 ③授業記録・レポート等 ④授業態度		
<p>担当者から受講上のアドバイス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業では座学・実習・ICT機器の活用を行います。 2 定期考査では特に2つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視します。 3 テスト・小テストは単元ごとの理解状況を把握します(農業クラブ活動を含む)。 4 実習では特に安全面に配慮しながら根気強く丁寧に実施できるのかを重視して評価します。 5 授業記録・レポート等(ワークシートを含む)は、提出期限までの取り組み状況を重視して評価します。 6 「主体的に学習に取り組む態度」は、積極性や活動状況、課題やテストに対する取り組みを重視します。 				

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月	第1章 「林産物利用」とプロジェクト学習	第1節 林産物利用に関するプロジェクト学習 第2節 プロジェクト学習の進め方	農業クラブ活動を含む
5月～3月	第2章 循環資源としての木材	第1節 木材の性質 第2節 木材の用途 第3節 循環資源と環境	実習を含む

3 指導と評価の計画

※「単元の目標」 - 「学びに向かう人間性等」は、すべて前ページ「科目の目標」のものに準じるので、割愛

(1) 単元：1章 「林産物利用」とプロジェクト学習

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 ・森林資源や林産業の概要について理解するとともに、関連する技術を身につける。		思考力、判断力、表現力等 ・森林資源や林産業の概要に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ・森林資源の概要、外国の林産業との比較を通して、身近な林産業について考察する。																					
<u>観点別評価規準</u> 知識・技能 ①プロジェクト学習の意義について理解している。 ②プロジェクト学習の進め方について理解している。		思考・判断・表現 ①プロジェクト学習の意義について課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ②プロジェクト学習の進め方について課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。																					
主体的に学習に取り組む態度 ①プロジェクト学習の意義について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 ②プロジェクト学習の進め方について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。																							
<u>教材範囲</u> 教科書 P 1	<u>内容のまとめり I</u> 第1節 林産物利用に関するプロジェクト学習の意義	<u>学習時期(予定)</u> 年度当初～5月	<u>配当時間</u> 6 時間																				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u> 1. プロジェクト学習の意義	<u>観点別学習評価</u> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>定期考査</td> <td>①</td> <td>レポート</td> <td>①</td> <td>授業への取り組み</td> <td>農業クラブ活動を含む。</td> </tr> </tbody> </table>			知・技		思・判・表		態度		備考	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	①	定期考査	①	レポート	①	授業への取り組み	農業クラブ活動を含む。
知・技		思・判・表		態度		備考																	
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																		
①	定期考査	①	レポート	①	授業への取り組み	農業クラブ活動を含む。																	
<u>教材範囲</u> 教科書 P 2～6	<u>内容のまとめり II</u> 第2節 プロジェクト学習の進め方	<u>学習時期(予定)</u> 年度当初～5月	<u>配当時間</u> 10時間																				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u> 1. プロジェクト学習の進め方	<u>観点別学習評価</u> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>定期考査</td> <td>②</td> <td>レポート</td> <td>②</td> <td>授業への取り組み</td> <td>農業クラブ活動を含む。</td> </tr> </tbody> </table>			知・技		思・判・表		態度		備考	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	②	定期考査	②	レポート	②	授業への取り組み	農業クラブ活動を含む。
知・技		思・判・表		態度		備考																	
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																		
②	定期考査	②	レポート	②	授業への取り組み	農業クラブ活動を含む。																	

(2) 単元：2章 循環資源としての木材

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 ・循環資源としての木材について理解するとともに、関連する技術を身につける。		思考力、判断力、表現力等 ・循環資源としての木材に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ・循環資源としての木材について自ら学び、その活用について考察する。																					
<u>観点別評価規準</u> 知識・技能 ①循環資源としての木材の性質について理解している。 ②循環資源としての木材の用途について理解している。 ③循環資源と環境について理解している。		思考・判断・表現 ①循環資源としての木材の性質に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ②循環資源としての木材の用途に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 ③循環資源と環境に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。																					
主体的に学習に取り組む態度 ①循環資源としての木材の性質について自ら学び、その活用について主体的かつ協働的に取り組む。 ②循環資源としての木材の用途について自ら学び、その活用について主体的かつ協働的に取り組む。 ③循環資源と環境について自ら学び、その活用について主体的かつ協働的に取り組む。																							
<u>教材範囲</u> 教科書 P 8～60	<u>内容のまとめり I</u> 第1節 木材の性質	<u>学習時期(予定)</u> 5月～11月	<u>配当時間</u> 30時間																				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u> 1. 木材の肉眼的構造	<u>観点別学習評価</u> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">知・技</th> <th colspan="2">思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>定期考査 小テスト</td> <td>①</td> <td>小テスト レポート</td> <td>①</td> <td>授業への取り組み</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			知・技		思・判・表		態度		備考	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	①	定期考査 小テスト	①	小テスト レポート	①	授業への取り組み	
知・技		思・判・表		態度		備考																	
規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法																		
①	定期考査 小テスト	①	小テスト レポート	①	授業への取り組み																		

2. 木材の顕微鏡的構造	①	定期考査 小テスト	①	小テスト レポート	①	授業への 取り組み	
3. 木材の物理的性質	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	
4. 木材の機械的性質	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	
5. 木材の化学的性質	①	定期考査 小テスト	①	定期考査 レポート	①	授業への 取り組み	

<u>教材範囲</u> 教科書 P 6 1 ~ 6 3	<u>内容のまとめ</u> III 第2節 木材の用途	<u>学習時期(予定)</u> 1 1 月 ~ 1 2 月	<u>配当時間</u> 8 時間
--------------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	---------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1. 木材の特性と用途	②	定期考査	②	定期考査 レポート	②	授業への 取り組み	
2. 木材の様々な利用	②	定期考査	②	レポート	②	授業への 取り組み	

<u>教材範囲</u> 教科書 P 6 4 ~ 7 6	<u>内容のまとめ</u> III 第3節 循環資源と環境	<u>学習時期(予定)</u> 1 月 ~ 3 月	<u>配当時間</u> 1 6 時間
--------------------------------	---	------------------------------	-----------------------

<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1. 循環資源としての木材	③	定期考査	③	定期考査 レポート	③	授業への 取り組み	
2. 木造建築物と循環	③	定期考査	③	レポート	③	授業への 取り組み	

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 森を活かすA	担当者(主) 米村 慎悟	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 2単位	
履修対象 グリーンコース必履修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書 副教材				
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 森林や河川に関する環境の重要性を認識するとともに、森林資源等に関する諸問題について研究を行う。また、有効活用に必要な知識と技術を習得し、地域産業の振興を図る能力と態度を育てる。					
知識及び技能 ① 自分一人で行う (例)・知識の応用 ・技術力発揮 ・集中力 等		思考力、判断力、表現力等 ② 班員と一緒に (例)・コミュニケーション ・協調性 ・段取り 等		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) ③ ①②を応用 (例)・リーダーシップ ・課題解決能力 ・主体性 等	
具体的な評価の方法 定期考査と実技を中心に評価します。					
知識・技能 学期末考査・実習		思考・判断・表現 学期末考査・実習		主体的に学習に取り組む態度 学期末考査・実習	
担当者から受講上のアドバイス <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にしてください。 ・実習後、実習ノートの記入があります。後で見えてわかるように丁寧に記入してください。また、提出の必要があります。 ・実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。 					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～	1年間の計画とファイル作り	年間の計画を理解させ、ポートフォリオのファイル作成づくりを行う。	
4～7月	溪流魚(資源を学ぶ)	ヤマメについての学習	
9～10月	炭(資源を活用する)	炭について学習する	
11～3月	鳥獣被害対策(地域資源を考える)	鳥獣被害の現状についての学習	

(1) **単元：学校設定科目（一括単元）**

<u>単元の目標</u>		知識及び技能 溪流魚（ヤマメ）について必要な知識や技能を身につける。	思考力、判断力、表現力等 溪流魚（ヤマメ）についての課題を解決する力を身につける。				
<u>観点別評価規準</u>		知識・技能 ①ヤマメの生態について知る ②淡水魚の種類を知る ③ヤマメの養殖環境を知る	思考・判断・表現 ①ヤマメの生育環境を作ることができる 主体的に学習に取り組む態度 ①観察に興味関心を持って臨んでいるか				
<u>教材範囲</u> プリント	<u>内容のまとめり I</u> 溪流魚	<u>学習時期（予定）</u> 4月～7月	<u>配当時間</u> 32時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>			
	知・技 規準	知・技 評価方法	思・判・表 規準	思・判・表 評価方法	態度 規準	態度 評価方法	
ヤマメの生育調査養魚槽の清掃・水源の管理①	①	実習・授業	①	実習・授業	①	実習・授業	*定期考査も含む
淡水魚の種類を知る	②	実習・授業			①	実習・授業	*定期考査も含む
ヤマメの生態・観察①、②	①	実習・授業	①	実習・授業	①	実習・授業	*定期考査も含む
ヤマメの生育調査養魚槽の清掃・水源の管理②	②	実習・授業	①	実習・授業	①	実習・授業	*定期考査も含む
ヤマメの生育調査養魚槽の清掃・水源の管理③	②	実習・授業	①	実習・授業	①	実習・授業	*定期考査も含む

(2) **単元：学校設定科目（一括単元）**

<u>単元の目標</u>		知識及び技能 炭について必要な知識や技能を身につける。	思考力、判断力、表現力等 炭についての課題を解決する力を身につける。				
<u>観点別評価規準</u>		知識・技能 ①炭作りの原理を理解することができたか ②炭作りの技術を身に付けることができたか	思考・判断・表現 ①炭の課題に気づき解決方法を考えることができたか 主体的に学習に取り組む態度 ①興味を持ち自ら進んで実習に取り組むことができたか				
<u>教材範囲</u> プリント	<u>内容のまとめり I</u> 竹・竹炭	<u>学習時期（予定）</u> 9月～10月	<u>配当時間</u> 10時間				
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>			
	知・技 規準	知・技 評価方法	思・判・表 規準	思・判・表 評価方法	態度 規準	態度 評価方法	
炭作りの原理を知る	①	座学・確認テスト					定期考査も含む
炭作り			①	実習・記録	①	実習・記録	定期考査も含む
炭を使った活用方法	②	実習・記録	①	実習・記録	①	実習・記録	定期考査も含む

(3) 単元：学校設定科目（一括単元）

<u>単元の目標</u> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;"> <u>知識及び技能</u> 鳥獣被害について必要な知識や技能を身につける。 </td> <td style="width:50%; border:none;"> <u>思考力、判断力、表現力等</u> 鳥獣被害についての課題を解決する力を身につける。 </td> </tr> </table>								<u>知識及び技能</u> 鳥獣被害について必要な知識や技能を身につける。	<u>思考力、判断力、表現力等</u> 鳥獣被害についての課題を解決する力を身につける。	
<u>知識及び技能</u> 鳥獣被害について必要な知識や技能を身につける。	<u>思考力、判断力、表現力等</u> 鳥獣被害についての課題を解決する力を身につける。									
<u>観点別評価規準</u> <table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:33%; border:none;"> <u>知識・技能</u> ①被害の起きる原因を理解したか ②対策手段を理解したか ③罾の使い方を理解したか </td> <td style="width:33%; border:none;"> <u>思考・判断・表現</u> ①罾を扱うことができるか ②効果的な対策を考えることができたか。 ③効果的な対策を表現することができたか。 </td> <td style="width:33%; border:none;"> <u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①授業に興味関心を持って挑んでいるか【実習】 </td> </tr> </table>								<u>知識・技能</u> ①被害の起きる原因を理解したか ②対策手段を理解したか ③罾の使い方を理解したか	<u>思考・判断・表現</u> ①罾を扱うことができるか ②効果的な対策を考えることができたか。 ③効果的な対策を表現することができたか。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①授業に興味関心を持って挑んでいるか【実習】
<u>知識・技能</u> ①被害の起きる原因を理解したか ②対策手段を理解したか ③罾の使い方を理解したか	<u>思考・判断・表現</u> ①罾を扱うことができるか ②効果的な対策を考えることができたか。 ③効果的な対策を表現することができたか。	<u>主体的に学習に取り組む態度</u> ①授業に興味関心を持って挑んでいるか【実習】								
<u>教材範囲</u> プリント		<u>内容のまとめり I</u> 鳥獣害対策			<u>学習時期（予定）</u> 11月～3月		<u>配当時間</u> 32時間			
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>						<u>備考</u>			
	<u>知・技</u> 規準 評価方法	<u>思・判・表</u> 規準 評価方法	<u>態度</u> 規準 評価方法							
八代市の農林業における鳥獣被害の現状を理解する。	① 実習・記録		① 実習				*定期考査課題			
高校生にでもできる鳥獣被害対策を考案する。	② 実習・記録	② ③ 実習・記録					*定期考査課題			
圃場、山林で鳥獣の防除、捕獲を実践する。		① ② 実習・記録	① 実習				*定期考査課題			
1年間のまとめとして泉町にはどのような資源と人材がいるかを考えてみる。			① 実習				*定期考査課題			

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 農業	科目 森で学ぶ	担当者（主） 中原 武徳	履修年次（今年度） 2年	単位数（今年度） 2単位	
履修対象 全員必履修	前学年からの 継続履修 有	次学年での 継続履修 有			
教材（出版社）	教科書 教科書はないため、指導案をもとに授業展開する	副教材 動植物やアウトドア関係の本、資料・プリントを使用			
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり -	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり -	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年：1月末 他：2月中旬あたり 有
科目の目標 「森で学ぶ」の学習では、森の動植物、山の生活文化、森林観光、アウトドアライフといった内容について、実習や観察・調査・記録などの学習活動とおおして、自然のすばらしさと効果について理解し、その活かし方についての知識と技術の習得を目指す。					
知識及び技術 「森で学ぶ」の学習・実技内容について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		思考力、判断力、表現力等 学習・実技内容に関する各自の課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。		学びに向かう力、人間性等（全単元共通） 学習・実技で習得した基礎的な知識と技術が社会生活の中で活用できるよう自ら学び、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	
具体的な評価の方法 定期考査と実技を中心に評価します。					
知識、技術 ・定期考査 ・実習（実技）		思考、判断、表現 ・定期考査（記述） ・実習（実技）		主体的に学習に取り組む態度 ・授業・実習中の学習態度 ・提出物の提出	
担当者から受講上のアドバイス ・授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にしてください。 ・実習後、実習ノートへの記入があります。後で見えてわかるように丁寧に記入してください。また、提出の必要があります。 ・実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。					

2 年間指導計画

学習時期（予定）	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月上旬	森の動植物	泉町の植物 泉町の動物	
5月中旬～6月上旬	山の生活文化	山村生活 郷土芸能	
6月上旬～12月	アウトドアライフ	溪流釣り キャンプ トレッキング マウンテンバイク	
1月～3月	プレゼンテーション作成	アウトドアライフのまとめ	

3 指導と評価の計画

(1) 単元：森の動植物

<u>単元の目標</u> 知識及び技術 ・自然環境のすばらしさ、仲間の大切さに関心を持ち、それらについて体感し、必要な知識を得る。		思考力、判断力、表現力等 ・得た知識と経験を活かし、様々な野外活動にチャレンジし、自ら考え行動できる態度を養う。		
<u>観点別評価規準</u> 知識、技術 ① 泉町に生息する動植物が理解できる。 ② 泉町の動植物の生態について理解できる。		思考、判断、表現 ① 動物の生態や季節毎の植物について理解を深め、泉町の自然環境下に置ける現状を主体的に考えられる。		
		主体的に学習に取り組む態度 ① 自然環境はもとより自分の生き方にも関心を持ち、意欲的に行動する能力と態度を養う。		
<u>教材範囲</u> プリント	<u>内容のまとめり I</u> 森の動植物	<u>学習時期 (予定)</u> 年度当初～5月上旬	<u>配当時間</u> 6 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法	
泉町の植物	①② 確認テスト	① 調査報告	① 取り組み	
泉町の動物	①② 確認テスト	① 調査報告	① 取り組み	

(2) 単元：山の生活文化

<u>単元の目標</u> 知識及び技術 ・山の生活文化や自然環境のすばらしさ、仲間の大切さに関心を持ち、それらについて体感し、必要な知識を得る。		思考力、判断力、表現力等 ・得た知識と経験を活かし、様々な野外活動にチャレンジし、自ら考え行動できる態度を養う。		
<u>観点別評価規準</u> 知識、技術 ① 山村の様々な生活文化について理解できる。		思考、判断、表現 ① 山村と都市の生活様式の違いを理解し、山村文化の魅力、不便さが理解できる。		
		主体的に学習に取り組む態度 ① 山村の置かれている現状を理解し、生活文化を維持・改善して行く能力と態度を養う。		
<u>教材範囲</u> プリント	<u>内容のまとめり I</u> 山の生活文化	<u>学習時期 (予定)</u> 5月中旬～6月上旬	<u>配当時間</u> 6 時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>	<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u>
	知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価方法	態度 規準 評価方法	
山村生活	① 確認テスト	① レポート	① 取り組み	
郷土芸能	① 確認テスト	① レポート		

令和6年度（2024年度）シラバス

1 科目概要

教科 家庭	科目 フードデザイン	担当者(主) 西山 智美	履修年次(今年度) 2年	単位数(今年度) 4単位	
履修対象 ライフコース必修	前学年からの 継続履修 -	次学年での 継続履修 有			
教材(出版社)	教科書 フードデザイン(実教出版)	副教材 家庭科問題集 基礎編(衣生活・食生活) 全国高等学校家庭科教育振興会			
定期考査の実施 ※変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり 有	1学期期末 ※7月上旬あたり 有	2学期中間 ※10月中旬あたり 有	2学期期末 ※12月上旬あたり 有	学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有
科目の目標 家庭の生活に関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。					
知識及び技能 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。		思考力、判断力、表現力等 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として創造的に解決する力を養う。		学びに向かう力、人間性等(全単元共通) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと協働的に取り組む態度を養う。	
具体的な評価の方法 3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。					
知識・技能 ・定期考査 ・実習 ・ワークシート		思考・判断・表現 ・実習や映像視聴、資料等の感想記述 ・行動観察、活動参加状況 ・ホームプロジェクト (取組、まとめ、発表の仕方)		主体的に学習に取り組む態度 ・行動観察 ・学習プリント記述 ・ホームプロジェクト	
担当者から受講上のアドバイス 家庭科は「自分の生活」が教材です。しっかりと「自分」を振り返りながら学習に臨んでください。授業で思ったこと、感じたこと、考えたことは積極的に発言しましょう。そして、他の人がどのような考えを持っているかを知り、聞きましょう。多様な生き方に触れ、豊かな人生となるような学習にしてください。期限や時間は守りましょう。また、苦手な分野があっても、意欲的に取り組んで欲しいと思います。					

2 年間指導計画

学習時期(予定)	学習単元	学習単元内の内容のまとめ	備考
年度当初～5月中旬	第1章 食生活と健康	(1)健康と食生活	
	第6章 フードデザイン実習	ア 食事の意義と役割 イ 食生活の現状と課題	
5月下旬～7月中旬	第2章 栄養素のはたらきと食事計画	(2)フードデザインの構成要素	
	第6章 フードデザイン実習	ア 栄養 (3)フードデザイン実習 ア 食事テーマの設定と献立作成	
9月中旬～12月中旬	第4章 調理の基本	(2)フードデザインの構成	
	第6章 フードデザイン実習	エ 調理	
1月中旬～3月中旬	第3章 食品の特徴・表示・安全	(2)フードデザインの構成	
	第6章 フードデザイン実習	イ 食品 (3)フードデザイン実習 イ 食品の選択と調理	

(1) 単元：第1章 食生活と健康

<p><u>単元の目標</u></p> <table border="1"> <tr> <td> <p>知識及び技能</p> <p>○食事の意義と役割について理解する。 ○食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理する。</p> </td> <td> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて考察する。</p> </td> </tr> </table>		<p>知識及び技能</p> <p>○食事の意義と役割について理解する。 ○食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理する。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて考察する。</p>										
<p>知識及び技能</p> <p>○食事の意義と役割について理解する。 ○食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理する。</p>	<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて考察する。</p>												
<p><u>観点別評価規準</u></p> <table border="1"> <tr> <td> <p>知識・技能</p> <p>①食事の意義と役割について理解している。 ②食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理ができる。</p> </td> <td> <p>思考・判断・表現</p> <p>①健康な食生活の在り方について問題を見いだして課題を設定している。 ②望ましい食習慣形成に果たす食生活の重要性について考え、工夫している。 ③健康な食生活について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④食の安全や地球環境に配慮した食の在り方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p> </td> <td> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>健康と食生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p> </td> </tr> </table>		<p>知識・技能</p> <p>①食事の意義と役割について理解している。 ②食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理ができる。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>①健康な食生活の在り方について問題を見いだして課題を設定している。 ②望ましい食習慣形成に果たす食生活の重要性について考え、工夫している。 ③健康な食生活について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④食の安全や地球環境に配慮した食の在り方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>健康と食生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p>									
<p>知識・技能</p> <p>①食事の意義と役割について理解している。 ②食習慣、栄養状態、食料事情、食の安全と環境との関わりなどの視点で、我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理ができる。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>①健康な食生活の在り方について問題を見いだして課題を設定している。 ②望ましい食習慣形成に果たす食生活の重要性について考え、工夫している。 ③健康な食生活について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④食の安全や地球環境に配慮した食の在り方についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>健康と食生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。</p>											
<p><u>教材範囲</u></p> <p>教科書 p 76～91</p>	<p><u>内容のまとめり I</u></p> <p>(1) 健康と食生活 ア 食事の意義と役割 イ 食生活の現状と課題</p>	<p><u>学習時期 (予定)</u></p> <p>年度当初～5月中旬</p>	<p><u>配当時間</u></p> <p>20時間</p>										
<p><u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u></p>	<p><u>観点別学習評価</u></p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">規準</th> <th>知・技</th> <th>思・判・表</th> <th colspan="2">態度</th> </tr> <tr> <th>評価方法</th> <th>規準</th> <th>評価方法</th> <th>規準</th> </tr> </table>			規準	知・技	思・判・表	態度		評価方法	規準	評価方法	規準	<p><u>備考</u></p>
規準	知・技	思・判・表	態度										
	評価方法	規準	評価方法	規準									
<p>1節 食事の意義と役割</p>	<p>①</p>	<p>①② ③</p>			<p>・なぜ、人は食べるのか？ ・箸使いのマナー ・日本と違う食事マナー ・美味しさはどう感じる？ ・旬の食材を使った</p>								
<p>2節 食をとりまく現状</p>	<p>②</p> <p>・定期考査 ・ワークシート ・行動観察</p>	<p>④</p> <p>・ノートやレポートにおける記述 ・行動観察</p>		<p>・ワークシート ・行動観察 ・提出状況</p>	<p>・生活習慣病レベルチェック ・欠食のはなぜダメなのか。 ・便利な食生活をどう活かすのか？ ・食品ロスについて考える</p>								
<p>第6章 フードデザイン実習</p>					<p>・旬の食材を使った調理 (タケノコご飯、若竹汁) ・和食 (鶏肉と野菜の煮物、かきたま汁) ・パウンドケーキ ・蒸しパン</p>								

(2) 単元：第2章 栄養素のはたらきと食事計画

<u>単元の目標</u> 知識及び技能 ○食生活を総合的に計画・実践できるようにするために、栄養について理解し、関連する技術を身に付ける。		思考力、判断力、表現力等 ○食生活を総合的に計画・実践できるように、栄養に関する課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について考察し、工夫する。
<u>観点別評価規準</u>		
知識・技能 ①基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能について理解している。 ②代謝及び水の生理的機能について理解している。 ③各栄養素の消化、排泄の仕組みについて、関連する情報を収集・整理ができる。 ④ライフステージごとの栄養の特徴について理解している。 ④日本人の食事摂取基準について理解している。	思考・判断・表現 ①日本人の食事摂取基準を踏まえ、自分の食生活について、健康的な食生活のための課題を設定している。 ②ライフステージごとの栄養の特徴を踏まえた食事計画について考え、工夫している。 ③各栄養素を多く含む食品、効率的に利用するための調理法を取り上げ、実践を評価したり、改善したりしている。 ④各栄養素を取り入れ、健康的な食生活上の留意事項、調理法の工夫などについて、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。	主体的に学習に取り組む態度 ①食生活の充実向上を目指して、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ※提出物の提出状況やアンケートへの回答状況、感想記入状況等より、日常的に評価する。

<u>教材範囲</u> 教科書 p 16～53	<u>内容のまとめり I</u> (2) フードデザインの構成要素 ア 栄養 (3) フードデザイン実習 ア 食事テーマの設定と献立作成	<u>学習時期 (予定)</u> 5月下旬～7月中旬	<u>配当時間</u> 30時間
----------------------------	--	-------------------------------	---------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1節 栄養素のはたらき	①②		②③				・洋食 (ハンバーグ・にんじんのグラッセ・いんげんのソテー・コンソメスープ) ・中華 (豚肉と野菜の炒め物・中華スープ・牛ない豆腐) ・洋食 (魚のムニエル・マセドアンサラダ・果汁かん) ・技術検定4級練習 (きゅうりの半月切り) ・中華 (チャーハン・粟米湯) ・旬の食材調べ、家庭での調理実践、特産品について
2節 ライフステージと栄養	③						
3節 食事摂取基準と食事計画	④		①②				
第6章 フードデザイン実習	⑤		③				
		・定期考査 ・ワークシート ・行動観察		・ノートやレポートにおける記述 ・行動観察		・ワークシート ・行動観察 ・提出状況	

(2) 単元：第4章 調理の基本

<p>単元の目標</p> <p>知識及び技能</p> <p>○安全性、栄養、嗜好、心身の健康、文化の伝承などの面から、日常食、行事食、供応食など調理に必要な知識と技術を身に付ける。</p>		<p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>○食物のおいしさは、味、香り、色、外観、テクスチャー、温度などに関わっていることなどの課題を発見し、その解決に向けてより豊かな食生活について考察し、工夫する。</p> <p>○食物のおいしさは、切り方、調味、加熱やその他の調理操作が料理の出来上りに大きく影響することについて考察し、工夫する。</p>
<p>観点別評価規準</p>		
<p>知識・技能</p> <p>①安全性、栄養、嗜好、心身の健康、文化の伝承などの面から、日常食、行事食、供応食など調理に必要な知識と技術を身に付けている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>①おいしさについて、味以外の要因が関わっていることについて、課題を設定している。</p> <p>②食物のおいしさは様々な要因が関わっていることについて考え、工夫している。</p> <p>③おいしさに関わる調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>④おいしさの関わる食物の扱い方や調理の仕方について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①食物のおいしさについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。</p>

<p>教材範囲</p> <p>教科書 p 92～115</p>	<p>内容のまとめり I</p> <p>(2) フードデザインの構成 エ 調理</p>	<p>学習時期 (予定)</p> <p>9月中旬～12月中旬</p>	<p>配当時間</p> <p>60時間</p>
---------------------------------	---	------------------------------------	-------------------------

学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価						備考
	知・技		思・判・表		態度		
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 節 調理とおいしさ	①		①②				<ul style="list-style-type: none"> ・マヨネーズ作り ・豆腐作り ・チーズ作り→カレー、チーズケーキ ・文化祭に向けて(お茶クッキー) ・技術検定3級練習 ・米粉講習会(米粉のシフォンロールケーキ、デコレーション) ・米粉を調べる・実践 ・栗の渋皮煮 ・手ごねパン ・おせち料理(昆布巻き、伊達巻き、かまぼこ飾り切り)
2 節 調理操作	①		③④				
第6章 フードデザイン実習		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやレポートにおける記述 ・行動観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 ・提出状況 	

(3) 単元：第3章 食品の特徴・表示・安全

<u>単元の目標</u> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p> <p>○食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を身に付ける。 ○輸入食品や様々な加工食品など多種多様な食品の中から、目的に応じて適切な選択ができる。</p>		<p style="text-align: center;">思考力、判断力、表現力等</p> <p>○食品の特徴や調理上の性質を科学的に考察する。 ○食品について安全や衛生に配慮した適切な判断ができる。 ○食品の生産・流通・加工などの現状における課題について考えをまとめる。</p>				
<u>観点別評価規準</u>						
<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>①各食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を身に付けている。 ②輸入食品や様々な加工食品などを、目的に応じて適切な選択をすることができる。</p>		<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>①各食品の特徴や調理上の性質について、課題を設定している。 ②食品に関する安全や衛生について考え、工夫している。 ③食品に関する安全や衛生について、実践を評価したり、改善したりしている。 ④食品の生産・流通・加工などの現状における課題について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。</p>		<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>①食品の特徴や調理上の特性を踏まえた安全で適切な選択の仕方について、主体的に取り組もうとしている。</p>		
<u>教材範囲</u> 1月中旬～3月中旬		<u>内容のまとめり I</u> (2) フードデザインの構成 イ 食品 (3) フードデザイン実習 イ 食品の選択と調理		<u>学習時期 (予定)</u> 1月中旬～3月中旬	<u>配当時間</u> 30時間	
<u>学習活動、学習のねらい、学習形式等</u>		<u>観点別学習評価</u>			<u>備考</u> ・ホームプロジェクトまとめ ・いきなり団子 ・季節の料理(恵方巻き・さつま汁) ・カスタードプディング ・季節の料理(ちらし寿司・はまぐり吸い物) ・さつま揚げ作り	
		<p style="text-align: center;">知・技</p>		<p style="text-align: center;">思・判・表</p>		
		<p style="text-align: center;">態度</p>				
1節 食品の特徴と性質		規準 ①② 評価方法 ・定期考査 ・ワークシート	規準 ①② ③④ 評価方法 ・ノートやレポートにおける記述 ・行動観察	規準 評価方法 ・ワークシート ・行動観察 ・提出状況		
第6章 フードデザイン実習		規準 ② 評価方法 ・行動観察	規準 ③ 評価方法 ・行動観察	規準 評価方法 ・ワークシート ・行動観察 ・提出状況		